



栗原市立宝来小学校閉校記念誌



2012.03



あいさつ

宝来小学校・幼稚園 閉校閉園記念誌	栗原市長	佐藤 勇	1
宝来小学校の閉校に寄せて	栗原市教育委員会教育長	亀井 芳光	2
三つの大きな歯車が回って			
―― 栗原市立宝来小学校長・宝来幼稚園長	小野寺	亨	3
ありがとう宝来小学校	栗原市立宝来小学校PTA会長	氏家 俊樹	4
宝来小学校・幼稚園、閉校・閉園に際して			
―― 閉校・閉園記念事業実行委員会委員長	木村 壽夫		5

あゆみ

宝来小学校の沿革	6～9
宝来幼稚園の沿革	10

学校の概要

学区について・学校について・児童について	11
学校平面図・校舎配置図	12
児童数・園児数の推移	13

校歌・校章

校歌・校旗・校章	14
----------	----

歴代校長・PTA会長

歴代校長・PTA会長	15
------------	----

寄稿

歴代校長

宝来小学校の思い出	第13代校長	青野 弘	16
宝来小学校の思い出	第16代校長	千葉 清男	16

元職員（教頭）

「情熱・愛情・感動」の教育をいつまでも				
―― 昭和63年度～平成元年度勤務	教頭	菅原 重悦	17	
思い出 一山城の地で	―― 平成4年度～7年度勤務	教頭	青沼 拓夫	17
宝来小学校の伝統にふれて				
―― 平成14年度～15年度勤務	教頭	高橋 雅子	18	

元職員

宝来小学校閉校に寄せて				
―― 昭和55年度～59年度勤務	教諭	加賀谷 宏次	19	
宝来小学校での思い出				
―― 昭和59年度～平成元年度勤務	教諭	日野 紀子	19	
音楽祭「ぞう列車がやってきた」の顛末				
―― 平成16年度～22年度勤務	教諭	阿部 敏彦	20	
宝来幼稚園閉園にあたって				
―― 昭和57年～61年度・平成21年～22年度勤務	教諭	菅原 静子	21	
みんなで子育て	―― 平成12年度～14年度勤務	教諭	神田 永里美	22
宝来ファミリー	―― 平成17年度～20年度勤務	教諭	芳賀 淳子	23





寄稿

卒業生

思い出	昭和24年度卒業（芋塚）	佐藤 虎男	— 24
リレー	昭和31年度卒業（東京都）	鎌田 修	— 24
郷愁の宝来小によせて			
	昭和37年度卒業（埼玉県）	福澤 月美（旧姓 佐藤）	— 25
回想から	昭和40年度卒業（田高田）	高橋 實	— 26
宝来小学校と共に	昭和40年度卒業（田高田）	高橋 俊子	— 27
思い出	昭和42年度卒業（泉沢）	佐藤 幸記	— 27
私達から子供へつながった宝来小学校			
	昭和52年度卒業（渡丸）	木村 玲子	— 28
ありがとう 宝来小学校	昭和52年度卒業（渡丸）	鈴木 泰広	— 29
礎	昭和56年度卒業（カナダ）	鈴木 美和	— 30
宝来小学校閉校にあたり	平成3年度卒業（千葉県）	佐藤 紀章	— 31
「ありがとう、宝来小学校」	平成11年度卒業（大崎市）	佐藤 淳	— 31
宝来小学校の思い出	平成12年度卒業（田高田）	高橋 千束	— 32
私の原点	平成13年度卒業（町田）	三浦 真依	— 33
思い出いっぱい宝来小学校・幼稚園			
	平成16年度卒業（芋塚）	佐藤 貴信	— 33
「宝来小学校、宝物をありがとう」			
	平成16年度卒業（西田）	阿部 叶恵	— 34
ふと考えたこと	平成17年度卒業（泉沢）	高橋 琴美	— 34
沢山の笑いと涙、笑顔いっぱいの生活			
	平成18年度卒業（西田）	芳賀 梨菜	— 35
宝来小学校での思い出	平成21年度卒業（渡丸）	木村 大寿	— 36
思い出いっぱい宝来小学校	平成21年度卒業（町田）	熊谷 芽衣	— 37
地区委員長			
「思い出の宝来小学校」	平成23年度 芋塚地区委員長	吉田 俊樹	— 38
宝来小学校の思い出	平成23年度 渡丸地区委員長	千田 昭	— 39
万感胸に	平成23年度 泉沢地区委員長	佐藤 修	— 40
宝来小最後の一年に想いを寄せ			
	平成23年度 田高田地区委員長	高橋 康弘	— 41
宝来小学校閉校にあたり	平成23年度 町田地区委員長	岩下 幸司	— 42
思い出をたくさんありがとう			
	平成23年度 西田地区委員長	細倉 和江	— 43

編集後記





宝来小学校・幼稚園 閉校閉園記念誌

栗原市長 佐藤 勇

秀峰栗駒山の東南に位置し、二迫川の支流である金生川と芋塚川に挟まれた自然豊かな丘陵地で、子どもたちに多くの学びを与えてきた宝来小学校・幼稚園が閉校するにあたり一言ごあいさつ申し上げます。

宝来小学校は、姫松小学校から昭和31年に独立し、開校以来56年にわたる長い歴史と伝統を築き、宝来地区の発展に重要な役割を果たしてこられました。

この間、多くの優れた人材を世に送り出し、県内外におきまして、幅広い分野でご活躍されておりますことは、宝来地区の皆様の長年にわたる温かいご支援の賜であり、厚く御礼申し上げます。

また、歴任教職員各位をはじめ、関係者の皆様の並々ならぬご尽力に対し、深く敬意と感謝の意を表する次第であります。

さて、長い歴史の中で、小学校の合併や分離などを重ねながらも、保護者をはじめ地域の方々の学校教育に対する深い御理解と御協力により、健全な子ども達の育成やPTA活動が活発に行われてきたのが宝来小学校であります。

特に、学校教育の先がけとも言える、福祉教育普及校の指定や学校保健優良校、宮城県学校花壇コンクールなどによる入賞は、栗原や宮城県内の小学校の中でも、良き模範として上げられるものであり、ボランティア活動や教育環境の美化などは、地域と学校が一体となった教育が子ども達を健やかに育ててきたものと感じております。

これまで当校を巣立った皆様にとって、母校の閉校は何事にも代え難い寂しさであり、また、地域の皆様の愛惜の念も深いものがあると拝察いたします。しかし、ここで歴史が終わるのではなく、これからは次代へ宝来の歴史と伝統が受け継がれていくよう願うものであります。

今後、学府くりはらの実現に向けて、教師と子ども達がしっかりと向き合い、学校生活に満足感がこれまで以上に得られる、教育環境づくりを目指すとともに、宝来小学校が育んだ歴史が長く受け継がれ、新しい地域の歴史が築かれていくことを心から御祈念申し上げ、閉校・閉園記念誌発刊のあいさつといたします。



校舎





宝来小学校の閉校に寄せて

栗原市教育委員会
教育長 亀井 芳光

昭和29年4月、私は姫松村立姫松小学校片子沢分校に入学しました。しかし、昭和の大合併により私の居住する姫松村が旧築館町、栗駒町、一迫町の三町に分村したことで、新たに分校から独立した栗駒町立宝来小学校の片子沢分校で学ぶことになりました。昭和31年4月のことであります。それ以来、宝来小学校は私にとっては、本校であり母校となりました。

しかしながら、昭和41年3月、片子沢分校が閉校となり、私の地区は尾松小学校に学区替えとなり、長女は尾松幼稚園、尾松小学校を卒業しました。

ところが、今度は宝来小学校が現在の地に新築移転されたことから、再び、宝来小学校学区となり二女は尾松幼稚園を卒園後、平成4年4月、宝来小学校に入学しました。結果として、長女と二女は違う小学校の卒業生となりましたが、どちらの学校も娘の母校であり、その愛情に満ちた両校のきめ細かい指導には心より感謝しております。

さて、「不易と流行」という言葉があります。何事においても、時代の変遷に左右されることなく継続していかなければならない「不易」の部分と時代と共に変えていかなければならない「流行」の部分があります。その意味からも、将来を担う子どもたちの教育を考えると、学校再編は避けずには通れない「流行」の部分であります。

母校であり、地域の象徴である学校の閉校は、卒業生にとっても、地域の方々にとっても愛惜の念を禁じえない寂しさを誰もが持っていることと思います。

平成24年4月、子どもたちは再編される新生「栗駒南小学校」に通学することになりますが、これまで地域と共に歩み続けてきた宝来小学校の輝かしい歴史や伝統の灯を受け継ぎ、多くの友と競い、励ましあいながら新しい光を発揮してくれることを信じてやみません。

結びに、閉校にあたり、これまで宝来小学校を温かく見守り、支えてこられた地域の皆様に心より敬意と感謝申し上げます。閉校記念誌に寄せる言葉といたします。



校舎





三つの大きな歯車が回って

栗原市立宝来小学校長
栗原市立宝来幼稚園長
小野寺 亨

本校・本園では、これまで閉校・閉園と再編・統合に向けて、三つの大きな歯車が着実に回ってきました。

一つ目の歯車は、校内・園内のことです。最後の年度ということで、「行事などに全力で取り組み、最後の思い出を作ろう」、「尾松小学校・幼稚園との交流や合同PTA行事に進んで参加しよう」と、児童・園児と保護者、職員に呼びかけてきました。運動会と学習発表会は例年以上の大盛会で、対外的な北部水泳大会、市陸上大会、作文・詩・造形作品・標語等のコンクールでは数多くの入賞を果たしました。新企画のPTA親子キャンプファイアーで感動的な思い出も作りました。尾松小学校・幼稚園との交流、小学校合同学年PTA行事も大成功で、児童・園児と保護者も再編への大きな第一歩を踏み出すことができました。

二つ目の歯車は、学校再編準備委員会です。何度も話し合いを重ね、約9カ月かかってやっと校名が決定しました。その後、校歌が決まり、現在は校章と運動着について検討を行っています。また、学校経営や教育課程、児童活動、学校・教科備品の四つの部会に分かれて話し合いが行われ、準備が着々と進められてきました。

三つ目の歯車は閉校・閉園記念事業実行委員会です。5月に委員会が立ち上げられ、記念誌と記念碑、記念式典の三つの部会が、委員の地域・学校への熱い思いと素晴らしい団結で推進されてきました。特に記念誌部会では多くのメンバーが編集作業に取り組んできました。

このように三つの大きな歯車が着実に回って、閉校・閉園と再編・統合を目指して進んできました。分校時代83年、独立後の旧校舎で36年、新校舎で20年と139年の歴史ある本校と41年の歴史ある本園が閉校・閉園を迎えます。地域の皆様には寂しいことですが、未来を担う児童・園児には、たくましく生き抜く力を培う環境になることを強く信じております。



平成24年 校舎上空写真





ありがとう宝来小学校

栗原市立宝来小学校PTA会長
氏家 俊樹

この山城の地に宝来小学校が移転してから早20年が経過しました。当時、大学生だった私は自分が通った小学校が無くなったことに対して、とても切なく残念な気持ちになった事が思い出されます。しかし、西田地区、町田地区が新たな学区として加わり、児童数、PTA会員も増えこれが本来の姫松地区の宝来小学校の姿に戻っただけなのだと考えておりました。しかしながら児童数減少が急激に進む今現在、市の学校再編計画により宝来小学校が閉校となってしまう事に直面し、感慨深い思いで一杯です。

春の大運動会、秋の地区民運動会とその前日の奉仕作業や、各地区が持ち回りで行ったグラウンド整備などは、PTA会員だけでなく地区民も一緒に行いました。皆さんが子供達や学校の安全の維持、発展を願って一生懸命作業する様子は、この地域の一体感や団結力を強烈に表現しているように見えました。宝来小学校は、学校の規模は小さくても、ただ子供達に勉強を教える場所にとどまらず、PTA会員や多くの地区民のこころのよりどころになっていました。また、小さい規模の学校だからできる行事や活動を通して教わった事など、環境的には何か家庭的な温かいものを感じることができました。さらに、地域の歴史、伝統をも後世へ伝えようとしていた場所だったとも思われます。

尾松小学校と再編して尾松小学校の校舎を利用し、新しく栗駒南小学校となります。在校生の子供達にとっては、慣れ親しんだ環境から一変し大変だろうと思います。持ち前の宝来っ子魂で早く新しい環境に慣れていく事をお祈りし、また宝来小学校最後のPTAの代表として、先輩諸氏が築き上げてこられた宝来の良い伝統を少しでも新しい学校に伝えることが出来るよう努力してまいりたいと思います。今後のPTA活動にも、より一層の会員皆様のご理解とご協力をお願いいたします。



平成9年 航空写真





宝来小学校・幼稚園、閉校・閉園に際して

栗原市立宝来小学校・宝来幼稚園
閉校・閉園記念事業実行委員会 委員長 木村 壽夫

私達地区民を育ててくれた宝来小学校・幼稚園が平成24年3月で閉校・閉園となり、100有余年に亘る輝かしい歴史に幕を閉じ、尾松小学校と再編して栗駒南小学校、尾松幼稚園と統合して新たな尾松幼稚園として、それぞれスタートすることになりました。

明治、大正、昭和と激動する時代の中で町村合併、そして教育体制の変化に伴い寺子屋からはじまり、隣接小学校の支校そして分教場、分校を経て現在の宝来小学校・幼稚園となりました。この学校は地域から愛され地域と共に歩み、小規模校であるにもかかわらず学力そしてスポーツと優秀な子供達を育て世に送り出してきたことを地区民と共に誇りに思います。特に剣道においては数多くの優勝旗、カップが学校に陳列されており、子供達の努力の成果が残っています。この影には、この地区にしか無い剣道後援会が大きな力になったことと思い感謝申し上げます。

平成の大合併により学校は栗駒町立から栗原市立となりましたが児童減少、少子高齢化の波が宝来地区にも押し寄せ、地区民一同で育んで来た学校が閉校となることに対し、非常に悲しい思いでいっぱいです。しかし、子供達の未来を考えると悲しんでばかりではいけません。「子供達の未来は永遠に輝いていなければいけない」と何かの本の一節を思い出し、栗駒南小学校、新生尾松幼稚園になっても輝く未来に向かって登校・登園する子供達であってほしいと心より願うものです。

我等が宝来小学校・幼稚園がこの場所に在ったこと、そしてどのような人々がどのような歴史を刻んだかを後世に残す為に現PTAを中心に歴代会長、行政区長さん、校長先生をはじめ教職員の皆さんと閉校・閉園記念事業実行委員会を設立しました。委員会は記念式典部・記念碑建立部・記念誌編集部・事務局・会計の5部門とし、平成23年5月より発足し、全体会議そして各部会議と数多くの会議を重ね、閉校・閉園式を迎えることができました。

最後に本事業推進に当たり、記念誌の文集、写真の寄与に御協力していただきました皆様、記念碑の碑文を書いていただいた教育長様、そして多大なる御援助をいただいた学区民皆様、校長先生をはじめ教職員の皆様の御協力に心から感謝申し上げます。子供達及び地区民の未来が永遠に輝くことを祈願して閉校・閉園記念誌発行の挨拶といたします。



幼稚園舎





年号	月	歴代校長名	代	沿革	
明治	6			学制公布により、泉沢小学校・芋塚小学校を創立する。	
	8			学区制定により、栗原小学校の支校となる。	
	17			学区の編成により、宮野小学校の分教場となる。	
	21			学区の変更により、富野小学校の分教場となる。	
	22	4		町村制の施行により、玉沢村、片子沢村、宝来村、三村合併し、姫松村と改称、姫松尋常小学校の分教場となる。	
	23	10		義務教育 4 ヶ年となる。	
	25	5		独立し、宝来小学校と改称する。	
	31			児童数漸増により、校舎増築する。	
	32	4	丹野 啓介	3	町村制の実施に際し、姫松小学校の分校となる。
	33	11	小山喜三郎	4	
	34		小山 義昌	5	
	37	4			片子沢の一部田高田区を通学区域に編入する。
	40	7	浅野 久蔵	6	
41	4			義務教育年限延長に際し修業年限2 ヶ年の高等科を併置し、姫松尋常高等小学校の分教場となる。	
43	4			2 学級 5 年生まで、1 2 1 名在籍	
大正	3	11	木村 見吾	7	
	7	9	草刈 内記	8	
	9	4			3 学級 6 年生まで、1 6 7 名在籍
	12	4	高橋比登志	9	
昭和	2	4			3 学級 6 年生まで、1 6 3 名在籍
	8	4			3 学級 5 年生まで、1 7 1 名在籍
		8	上坂 信勝	10	
	10	5			宝来分教場新校舎が落成する。
	12	9	菊地 譲	11	
	15	12			みそ汁給食を行う。
	16	4			国民学校令公布により姫松尋常高等小学校を廃し、姫松国民学校と改称されたのでその分教場となる。 義務教育8 ヶ年となる。
	17	4			収容児童が4 年生までとなり、5 年生から本校へ通学する。
	18	4	三浦 忠雄	12	宝来分教場に、父兄会、母姉会が設立される。
	19	5	長沼 實	13	
	20	10			疎開児童により9 3 名に達したので、3、4 年生を単式として、1 学級増の4 学級となる。
	21	4	松田良太郎	14	4 学級で、1 7 2 名在籍
	22	4	谷田 了誓	15	国民学校廃止、小学校となり姫松小学校宝来分校となる。小学校は6 年、中学校3 ヶ年、6、3 制となる。
	5			小学校内に、父母教師会が設立される。	





年号	月	歴代校長名	代	沿革	
昭和	23	4		5年まで5学級となり、東昇降口を改造教室とする。	
	24	3	菊地 勝見	16	
	27	4	菅原 博	17	
	30	4	阿部 盛	18	合併促進法により姫松村を廃し、栗駒町となる。 片子沢宝来学区の児童生徒の教育は、一迫町教委へ委託される。
	31	4	佐藤 繁雄	初	栗駒町立宝来小学校となる。 本校 6学級で、255名在籍 片子沢分校 6学級で、111名在籍 合計 366名在籍
		8			芋塚川南地区が栗駒町より分町し築館町に合併したため、8月24日児童255名 中60名が宮野小学校に転出する。
		10			本校分校に、水道設備が完成する。
	32	3			財産区処理した金で電話を架設する。(栗駒町姫松地区)
		6			応接室、宿直室を新築落成する。
		10			佐藤安行氏、氏家正一氏に協力を頂き校庭を拡張する。又、学区民の寄附により全 校にカーテンを取り付ける。
	35	5			本校、分校、1教室ずつ増築になる。
		6			片子沢町田 菊地質氏より校旗樹立される。田高田の高橋辰蔵氏よりテレビを贈呈 される。
	36		小林 正一	2	
	37	7			P T Aの奉仕作業により、校庭西側校舎、前校庭南側を造成する。氏家正一氏より 敷地の一部提供をお願いし完成する。
	38	4	泉田 忠雄	3	
	39	4			校歌を制定する(作詞・泉田忠雄、作曲・海老名仁平。学区民の寄附により鼓笛隊 を編成する。
	41	3			学区変更により、片子沢分校の児童(西田区・町田区)は尾松小学校へ転出する。
		4	太田 保	4	
		8			P T A奉仕作業で、校舎周辺に植木を植栽する。
	42	4	高橋 一郎	5	姫松分館に開設された幼児学級が本校に移転する。
		12			みそ汁給食を開始する。
	43	10			屋体工事を着工する。
	44	3			屋体が竣工する。ステージ幕等は地区民及び同窓生の寄附金を募り設備する。
	45	7			プールが完成する。町の教育委員会に誓願し、不足分を地区民の浄財を仰ぎ土留め 工事を整えて完成する。
	46	4	菅原 正平	6	姫松幼児学級が、公立宝来幼稚園に昇格して発足する。
		6			防具一切を地区民の寄附により購入し、剣道教室を開設する。7月に剣道後援会も 設立する。
		10			宮城県父母教師会より、優良P T Aとして表彰状を受ける。
	47	11			宮城県教育委員会・朝日新聞社より、学校保健優良校として表彰される。
	49	4	伊藤延治郎	7	





年号	月	歴代校長名	代	沿 革
昭和	49			特別教室（1棟2教室）を増築する。
	52	4 中田 三雄	8	
	53	7		更衣室を新築する。
	55	4 佐藤 孝志	9	
	59	4 高橋 長江	10	
	60	8		放送室を新築する。
	62	4 高橋 哲郎	11	
	63	10		児童会の歌を制定する。（作詞・泉田忠雄、作曲・菅原文吾）
平成	64	4 菅原 功	12	
	3	4 青野 弘	13	
		10		宝来小学校、宝来幼稚園が、片子沢山城地内に新築移転のため、現小学校、幼稚園のお別れ記念事業実行委員会を発足する。
	4	3		校舎お別れ記念式典・記念碑除幕・感謝の会を開催する。（3月22日）
		4		新校舎（栗駒町片子沢山城54）へ移転する。
		12		校舎、体育館、プール落成記念式典を行う。（12月4日を開校記念日とする。）
	5	4 菅原 奎一	14	金銭教育研究校に委嘱される。（2年間）
	6	4		「学校みどりの日」に記念樹（こぶし3本）を植樹する。
		11		実のなる木を7種類中庭に植栽する。 金銭教育研究で2ヵ年の研究成果を発表する。
	7	3		校地の東側に植栽する。
		4 菅原 邦子	15	剣道後援会を設立する。 金銭教育研究で感謝状を授与される。
		10		日本赤十字宮城県支部より表彰される。
		11		第27回宮城県学校花壇コンクールで入選する。
	8	8		遊具（シーソー、雲梯、登り棒）を設置する。
		10		地域安全運動により若柳警察署より表彰される。
		11		第28回宮城県学校花壇コンクールで入選する。
	9	3		視聴覚室にコンピュータを設置する。
		9		健康な口腔と良い歯の学校表彰を受ける。
		10		100万本植樹事業を開始する。（280本植樹）
		11		第29回宮城県学校花壇コンクールで優良賞を受賞する。 肢体不自由の子どもを育てる運動で感謝状を頂く。
	10	4		ボランティア普及校の指定を受ける。（3年間）
		9		健康な口腔とよい歯の学校表彰を受ける。
		11		第30回宮城県学校花壇コンクールで入選する。
	11	4 千葉 清男	16	
		5		くりこま花いっぱいコンクール奨励賞を受賞する。
		9		学校みどりの日記念植樹祭を行う。健康な口腔とよい歯の学校表彰を受ける。 学校保健永年表彰を受ける。
		11		第31回宮城県学校花壇コンクールで優良賞を受賞する。
	12	8		校庭東側にバックネットを設置する。





年号	月	歴代校長名	代	沿革
平成 12	11			第32回宮城県学校花壇コンクールで優良賞を受賞する。
	12			ボランティア活動普及事業の発表を行う。
13	4	千葉 豊茂	17	
	5			100万本植樹事業を行う。(71本植樹)
	6			校木「松の木」を植樹する。
14	11			陸上自衛隊東北方面音楽隊演奏会を行う。 第33回宮城県学校花壇コンクールで優良賞を受賞する。
	4			学校いきいきプラン教員補助者が配属となる。
	10			新校舎移転10周年記念事業を行う。
15	11			第34回宮城県学校花壇コンクールで優秀賞を受賞する。
	4	佐藤 好勇	18	特殊学級が新設される。(17年3月廃止) スクールバスの運行を開始する。
	9			健康な口腔とよい歯の学校表彰を受ける。
16	11			第35回宮城県学校花壇コンクールで入選する。
	2			学校図書館システムを導入する。
	9			健康な口腔とよい歯の学校表彰を受ける。
17	10			くりこま花いっぱいコンクールで優良賞を受賞する。
	11			第36回宮城県学校花壇コンクールで入選する。
	3			特殊学級を廃止する。 プールサイドの補修工事が完了する。
18	4			町村合併により栗原市立宝来小学校となる。 宮城県教育委員会より小学校英語活動推進事業の指定を受ける。(4年間)
	10			健康な口腔とよい歯の学校表彰を受ける。
	11			第37回宮城県学校花壇コンクールで入選する。
19	4	高橋 芳明	19	
	9			健康な口腔とよい歯の学校表彰を受ける。
	11			第39回宮城県学校花壇コンクールで入選する。
20	6			岩手・宮城内陸地震が発生(6月14日)し、大被害を負う。(校庭一部崩落、体育館外壁破損、プールサイド一部陥没、給食室・周辺壁のひび割れ)
	9			健康な口腔とよい歯の学校表彰を受ける。
	11			第40回(最終回)宮城県学校花壇コンクールで優秀賞を受賞する。(平成7年より14年連続入賞・入選)
21	3			地震被害箇所の復旧工事が完了する。
	8			児童用及び教師用パソコンを更新する。
	10			健康な口腔とよい歯の学校表彰を受ける。
22	4	小野寺 亨	20	
	10			健康な口腔とよい歯の学校表彰を受ける。(平成15年より8年間連続表彰)
23	3・4			東北地方太平洋沖地震(3月11日)及び余震(4月7日)が発生し、被害を負う。
	6			宝来小学校が尾松小学校と再編し、宝来幼稚園が尾松幼稚園と統合するため、宝来小学校・宝来幼稚園閉校・閉園記念事業実行委員会を発足する。
24	3			宝来小学校・幼稚園閉校・閉園式、閉校・閉園記念碑除幕式、感謝の会を開催する。(3月20日)





年号	月	沿革
昭和	46	宝来幼稚園に昇格となる。
	48	教室前にテラスを取り付ける。
	52	カラーテレビを購入する。
	59	トイレの通路堀を取り付ける。
	61	非常口を修理する。
平成	3	電子オルガンを購入する。
	4	新園舎が落成し、移転する。
	5	砂場を設置する。
	6	野菜栽培園を新設する。
	7	5月人形を購入する。
	11	2年保育を開始する。保育室を増設する。 積み木・砂場道具を購入する。
	13	おおぞら幼年消防クラブを結成する。
	14	よい歯のコンクールで表彰される。
	15	スクールバスの運行を開始する。
	17	町村合併により栗原市立宝来幼稚園になる。
	19	「岩手・宮城内陸地震」で大きな被害を受ける。
	21	プリンタ・デジカメを購入する。
	23	「東北地方太平洋沖地震」で被害を受ける。
	24	3 宝来小学校・幼稚園閉校・閉園式、閉校・閉園記念碑除幕式、感謝の会を開催する。（3月20日）



平成3年 校舎・園舎お別れ旧記念碑





■学区について

本学区は、栗駒山の東南に位置しており、二迫川の支流である金生（きんせい）川と芋塚（いもぞね）川に挟まれた丘陵地が広がっている。田畑は、森林の間をぬった川の流域や沢合いに開かれている。当地区は、岩ヶ崎から東南へ約5km、築館から約8kmの位置にある。世帯数は約250戸、人口はおよそ1,000人である。農村地帯で兼業農家が多く、三世同居の家庭が大半を占める。その多くは、両親が共働きのため、下校後の児童の面倒はおもに祖父母がみている。少子化等による児童数の減少に伴い、近所の友達も少なくなっている。保護者は、教育に対する関心が高く、学校教育に対して深い理解があり、協力的である。PTA活動も活発である。地区子ども会活動においても、子どもの主体性を重視した活動が年間をとおして展開されている。

「宝来（たからぎ）」という名称は、明治8年の芋塚村、嶺崎村、渡丸村、泉沢村の4か村が合併する際に、村の発展を願ってできた「宝来村」に始まる。

明治22年に王沢村、片子沢村との3村合併で姫松村となったとき、宝来は「大字」となった。

その後、昭和30年の町村合併で、姫松村の西部地区は一迫町と、他地区は栗駒町と分村して合併した。翌31年8月、芋塚南部地域が栗駒町から分離し、築館町と併合した。

「宝来」という名前は昭和31年に開校した学校の名称として残され、今日に至る。



■学校について

平成4年4月、校舎の老朽化と校庭の狭さなどから、現在地（山城）に校舎が新築され移転した。その際、尾松小学校より西田・町田の2地区が編入され、現在は、芋塚・渡丸・泉沢・田高田の4地区と合わせて6地区からなる。

平成17年4月、栗原郡10か町村が合併して栗原市が誕生。栗原市立宝来小学校となる。

平成10年度に「ボランティア活動事業普及協力校」として宮城県社会福祉協議会の指定を受けて以来、総合的な学習の時間等で福祉活動に力を入れて実践している。また、環境・緑化教育の一環として、学校・学級花壇や学級農園を児童が管理運営している。その成果として、平成7年以降、「宮城県学校花壇コンクール」「くりこま花いっぱいコンクール」において、入選、優秀賞を受賞している。平成15年度からスクールバスが運行し、バス通学を開始した。宝来小学校剣道教室に所属し、各種大会で活躍している児童も多い。平成17年度から4年間、宮城県教育委員会より「小学校英語活動推進事業」の指定を受けて研究に取り組んだ。

近年、児童数の減少によって隣接2学年の合計が16人を割るようになり、平成18年度から2学年と3学年が複式学級となっている。

平成20年6月14日に発生した「平成20年岩手・宮城内陸地震」により、体育館、プール及び校庭の法面の一部に大きな被害を受けた。また、平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震と4月7日の余震により、体育館屋根外部裏板のはがれ、プールサイド周辺の陥没、舗装の大きなひび割れなどの被害を受けた。

■児童について

児童は、素朴で明るく、友達に対する思いやりが見られる。縦割り活動や合唱等で上学年がリーダーシップを取り、積極的に下学年の世話をする姿も見られる。学校全体の人間関係は良好であるが、小規模校のため多くの友達と交わる機会が比較的少ない。また、積極性にやや乏しい傾向も見られる。そのため、個を大切にしながら児童一人一人の主体性を育てる教育活動の推進に努めている。



■宝来小学校位置図

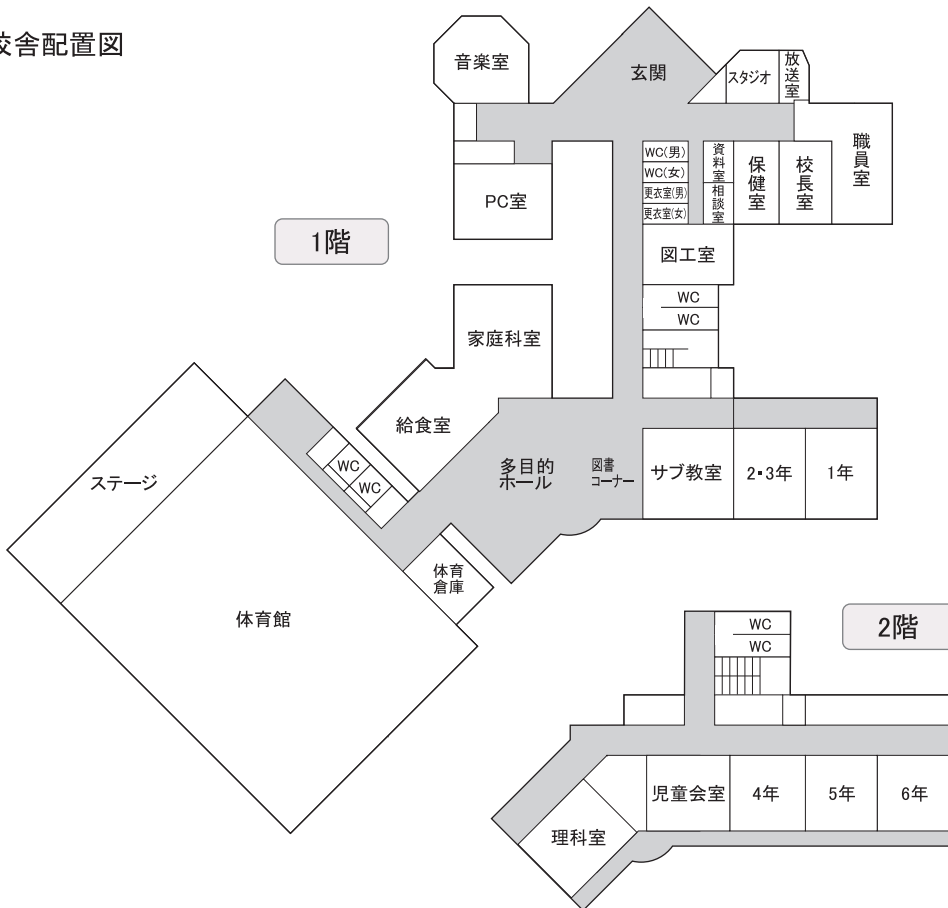




■ 学校平面図



■ 校舎配置図





宝来小学校の児童数の推移



宝来幼稚園の園児数の推移 単位：人



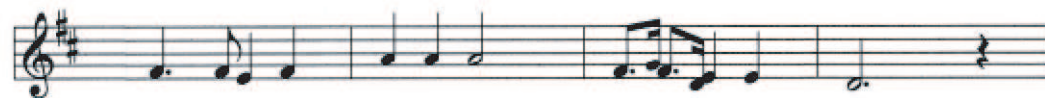


宝来小学校 校歌

作詞 泉田 忠雄
作曲 海老名仁平



くりーこま やまの そーらーあ お く
きんーせい がわの せーせーら ぎ に
みよーにっ ぼんの あーさーぼ ら け



な がるる くもに のーぞーみ あ り
ゆーべは ほしの かーげーや さ し
か がやく まどに りーそーう あ り



このおかのえに まなびつつ ともとうたえぼ むねがなる
このふるさとに むつみつつ いのちみがかん あすのひへ
このよさくにに はげみつつ へいわのみらの ゆくところ



あおぐひとみも きよらかに あ あ
こころ けだかく すこやかに
はなと かおれよ わがちかい



ひかりあれ われらの たからぎ しょうがっこう
ほこりあれ
さかえあれ

校旗



校歌

作詞 泉田忠雄
作曲 海老名仁平

一、 栗駒山の空青く
流るる雲に 望みあり
この丘の上に 学びつつ
友と歌えば 胸がなる
仰ぐひとみも 清らかに
ああ 光りあれ
われらの 宝来小学校

二、 金生川のせせらぎに
夕べは 星のかげやさし
この故郷に むつみつつ
命みがかん 明日の目へ
心けだかく すこやかに
ああ 誇りあれ
われらの 宝来小学校

三、 見よ日本の朝ぼらけ
輝く窓に 理想あり
このよき国に 励みつつ
平和の道に 行くところ
花とかおれよ わが誓い
ああ 栄あれ
われらの 宝来小学校

校章

昭和35年6月、学区内(町田地区)の菊池質(ただし)氏より校旗が寄贈された際に校章を制定した。
近くにある「松尾芭蕉衣掛けの松」にちなみ、三つの松の葉に校名を配したものである。
平成5年に、字体と葉のデザインを一新した。





歴代校長

<分校>

第3代	明32~明33	丹野啓介
第4代	明33~明34	小山喜三郎
第5代	明34~明39	小山義昌
第6代	明40~大3	浅野久蔵
第7代	大3~大7	木村見吾
第8代	大7~大11	草刈内記
第9代	大12~昭7	高橋比登志
第10代	昭8~昭12	上坂信勝
第11代	昭12~昭17	菊地讓
第12代	昭18	三浦忠雄
第13代	昭19~昭20	長沼實
第14代	昭21	松田良太郎
第15代	昭22~昭23	谷田了誓
第16代	昭24~昭26	菊地勝見
第17代	昭27~昭29	菅原博
第18代	昭30	阿部盛

<本校>

初代	昭31~昭36	佐藤繁雄
第2代	昭36~昭37	小林正一
第3代	昭38~昭40	泉田忠雄
第4代	昭41	太田保
第5代	昭42~昭45	高橋一郎
第6代	昭46~昭48	菅原正平
第7代	昭49~昭51	伊藤延治郎
第8代	昭52~昭54	中田三雄
第9代	昭55~昭58	佐藤孝志
第10代	昭59~昭61	高橋長江
第11代	昭62~昭63	高橋哲郎
第12代	昭64~平2	菅原功
第13代	平3~平4	青野弘
第14代	平5~平6	菅原奎一
第15代	平7~平10	菅原邦子
第16代	平11~平12	千葉清男
第17代	平13~平14	千葉豊茂
第18代	平15~平18	佐藤好勇
第19代	平19~平21	高橋芳明
第20代	平22~平23	小野寺亨

歴代PTA会長 <本校>

初代	昭31	高橋和泉
第2代	昭32~昭35	佐藤秋雄
第3代	昭36	熊谷智義雄
第4代	昭37~昭42	佐藤正俊
第5代	昭43	氏家俊郎
第6代	昭44	佐藤正衛
第7代	昭45~昭48	佐藤俊郎
第8代	昭49	木村昭一
第9代	昭50~昭51	高橋勇輝
第10代	昭52~昭54	木村格
第11代	昭55	高橋哲夫
第12代	昭56~昭57	佐藤戦一
第13代	昭58~昭60	佐藤正明
第14代	昭61~昭63	吉田優俊
第15代	昭64~平2	佐藤正剛
第16代	平3~平4	小宮山文昭
第17代	平5~平6	佐藤正克
第18代	平7~平9	熊谷昭実
第19代	平10	高橋永人
第20代	平11~平12	木村壽夫
第21代	平13	佐藤金桃
第22代	平14	三浦和弘
第23代	平15~平16	佐藤正芳
第24代	平17~平18	鎌田真弥
第25代	平19	高橋寛
第26代	平20~平22	佐藤修
第27代	平23	氏家俊樹





宝来小学校の思い出

第13代校長 青野 弘



平成4年 学芸会

月日の立つのは早いもので、退職して、はや20年が過ぎようとしています。

私が、宝来小学校に勤務していたのは、平成3年4月から平成5年3月までの2年間でしたが、現在は宝来の里がある旧校舎での最後の1年間と、現在の校舎での最初の1年間というとても思い出に残る2年間を過ごすことになりました。

平成3年度は、児童数が60名程でスタートしました。「大運動会」、「町内ソフトボール大会」、「学芸会」、「球技大会」、「秋の遠足」、「昔の遊び・昔の話」、「スキー教室」などたくさんの思い出深い行事がありましたが、お別れ記念事業実行委員会を立ち上げ、『校舎とのお別れ』に向けて色々な準備を進めていきました。「校舎お別れ記念誌の編集」、「記念碑建立」、そして、「記念式典・感謝の会の準備」など、PTAや地域の皆様の協力を頂きながら3月22日には、盛大に「校舎お別れ記念式典」「感謝の会」などを行うことができました。

平成4年度は、新校舎になり、尾松小学校区より町田・西田の二地区を統合して六地区になり、児童数は80名程でスタートしました。校舎以外はまだ完成していない状態で、プールが完成したのは8月で、8月上旬にプール開きを行いました。鉄棒、ブランコ、すべり台などの遊具が完成したのも8月でした。12月4日に、やっと校舎、体育館、プールの落成記念式典を行うことができました。（この日が開校記念日になります。）1月には、新校舎落成記念学芸会を行いました。施設設備などを整備するのに、ほぼ1年かかりました。

この2年間は、校舎移転というたいへん忙しい時期であり、新校舎では校具、遊具等の不足もありましたが、地域の皆様の多方面にわたる多大な御協力に支えられ本当に充実した日々を過ごすことができました。

今後の宝来地区の益々のご発展を心からお祈り申し上げます。

宝来小学校の思い出

第16代校長 千葉 清男

宝来小学校を退職して11年目を迎えました。

退職後、岩ヶ崎幼稚園長1年間、その後、栗原市幼稚園初任者研修指導員として、栗原市の幼稚園を指導して廻って歩きました。

宝来小学校は、校舎・校庭も大きく自然環境に恵まれた素晴らしい環境構成の整った学校、幼稚園でした。児童数、教員も少なく、運動会、学芸会等の学校行事を行うのに父兄の協力、地域の協力をもらって実践したものです。400mも取れる校庭、全校児童で草取りをしても本当に少しだけ、朝会を行う所、体育館も大きく広い、清掃は子供だけでは無理、教師の手伝いも必要でした。校舎のまわりには学級の畑があり、教科の他に子供達は自然体験を通して、一人一人が小集団の中で価値に対する考え方を高め、積極的に行動、そこから主体的に学ぶ子供が育ったと思っています。



平成11年 花壇の花植え

平成時代に育った22、3歳の大人になっている皆さん、本当に立派です。宝来地区は小高丘陵跡があり、江戸、明治時代は栗原の中心地ではと歴史的に考えています。こういう宝来地域で宝来小学校が尾松小学校との再編、本当に残念に思います。残された6ヵ月、「有終の美」を児童、諸先生方、地域の方々の努力にご期待申し上げ、最後の言葉とさせていただきます。

平成時代に育った22、3歳の大人になっている皆さん、本当に立派です。宝来地区は小高丘陵跡があり、江戸、明治時代は栗原の中心地ではと歴史的に考えています。こういう宝来地域で宝来小学校が尾松小学校との再編、本当に残念に思います。残された6ヵ月、「有終の美」を児童、諸先生方、地域の方々の努力にご期待申し上げ、最後の言葉とさせていただきます。





「情熱・愛情・感動」の教育をいつまでも

昭和63年度～平成元年度勤務
教頭 菅原 重悦

市では新しい時代に対応した教育方針、急激な少子化等を踏まえ、全市的に学校の統合再編に取り組んで来たようです。その結果、宝来小学校は閉校となったのだと思います。児童や職員、地域住民が慣れ親しんだ学び舎に別れを告げることになります。宝来小学校の発展のために、ご尽力下さった職員そして地域の皆さん、大変ご苦労様でした。今後も地域が一体となって、宝来学区の新たな歴史と伝統を築かれますようお願いしております。

私は宝来小学校に二度お世話になっております。まず、児童として昭和19年姫松小学校宝来分校に入学、4年間通学し、2年間は本校でした。児童生徒10名程が姫松小中学校へ1時間の通学時間でした。田高田の小中学生の絆は深まりました。私の実家の裏隣りに、佐藤こうさんと言う先輩がおりまして、この方のリードで一泊での栗駒登山を仲間5名で実施しました。当時私は中学2年だったと記憶しております。無事帰宅できたときの達成感と充実感で最高の気分でした。私の人生は、登山で自信がついたと言っても過言ではありません。



平成元年 栗駒武道祭優勝・準優勝

次に職員としてお世話になりました。昭和63年から2年間です。芋塚の宝来小学校勤務の辞令を頂いたときは、嬉しさと緊張感で複雑な心境でした。当時は職員数14名、児童数71名でした。実際に勤務してみると、やさしい先生方、元気で明るい児童、PTAの会員はほとんどお知り合いの方々でした。私は毎朝、校庭の大木の枝の片付け方でした。子供たちは「おはようございます」、「今日も思いきり遊べるね」という言葉でした。私はここで教育の原点と言われている「情熱・愛情・感動」を実体験することができました。

最後になりますが、学校は地域文化の拠点です。その学校がなくなるわけです。自治会等が中心となり、集会所を特定し、3世代交流事業をどんどん進めてほしいものです。宝来学区の一層のご発展を祈念申し上げます。

思い出 一山城の地で

平成4年度～7年度勤務
教頭 青沼 拓夫

平成4年4月、宝来小学校に新任教頭として赴任しました。以来4年間、プール建設をはじめ、遊具設備や外構整備等、数々の貴重な経験をさせていただきました。その一つ一つがその後の教職生活を支える糧となりましたことに改めて感謝しているところです。数々の思い出の中のいくつかについて、当時の資料を紐解きながら、紹介させていただきます。

「4月8日、完成したばかりの新しい宝来小校舎に新1年生を迎え、入学式が行われました。子供たちが何を必要としているか、学校、家庭、地域が一体となって子供たちを見守り、健やかで明るくのびのびとした子供になるよう力を合わせていきたいと青野校長先生が式辞を述べられました。」(平成4年5月1日発行「ふれあいくりこま」第50号の表紙写真に添えられた文章から)

入学式前日に職員作業に入り、砂利を校門から玄関まで敷く作業を行っての入学式でした。砂利運搬の運転手さんの配慮で予定台数以上の量を運んでいただいたこと、日暮までに作業が終わらなかったことを覚えています。

「平成4年4月、校舎移転新築。その際尾松小学校より22名の児童を編入し全児童数82名。教職員数14名。管内一の小規模校。先生方は経験豊かで個性的。児童は純朴で明朗。集会では、いつも歌声が響き、児童会の活動も意欲的。しかし小規模ゆえの悩みも……(以下省略)」(平成5年度「栗原の教育」学校紹介文から)3人の校長先生はじめ個性的な先生方との出会い、小1時間もかかる通学にも、断固として徒歩通学を継続させた保護者の方々の思い、各種コンクールでの入賞や遅くまで頑張った書きぞめ練習など、子供たちの見事な活躍の数々も決して忘れられない思い出です。

芋塚の地の校舎お別れ記念誌「梧葉」の巻頭詩「さらば消えゆくものよ」を書かれた泉田先生のご指導を思い出しながら、消えゆく宝来小学校に思いを馳せています。





宝来小学校の伝統にふれて

平成14年度～15年度勤務
教頭 高橋 雅子

平成14年度から、2年間宝来小学校・宝来幼稚園の教頭・副園長として勤めさせていただきました。それ以前は一度も訪れたことがなく、県道からみえる校舎は、緑の丘にあるおとぎ話にでてくるような、メルヘンチックでモダンな建物だなあという印象でした。しかし実際に勤務してみると、想像していた以上の機密性に富んだ素晴らしい建物であり、児童・園児の健全な生活がありました。

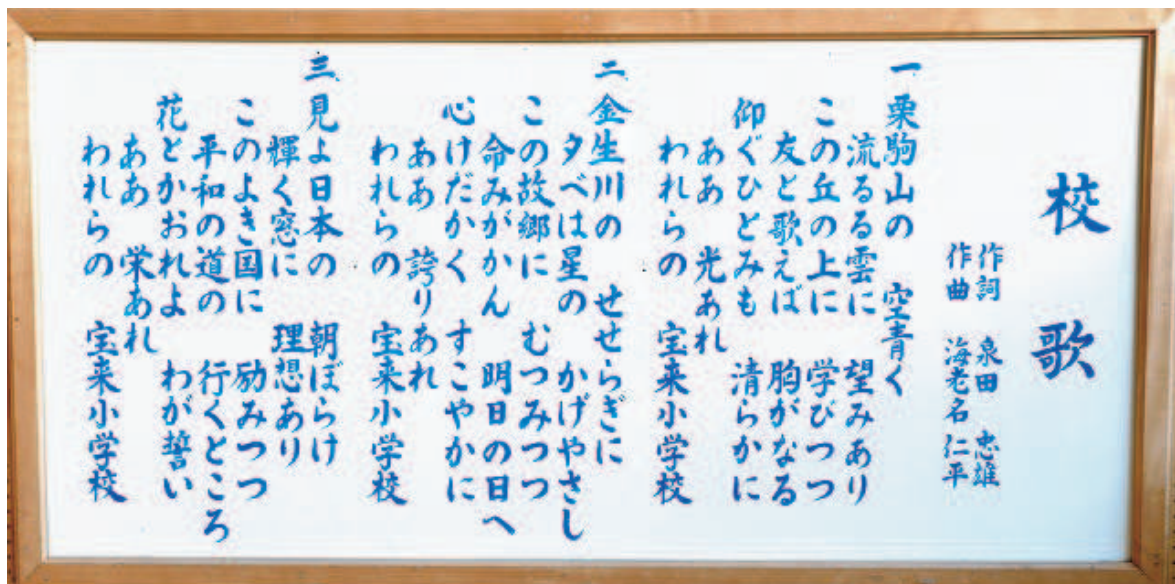
思い出のひとつに挙げられるのは、平成14年度に行われた「新校舎十周年記念行事」です。（千葉豊茂校長・三浦和弘PTA会長）。式典では、関係者の方々に移転以前の学校の事や移転時の苦労等聞き、歴史の重みを感じました。記念のしおりを見ますと、児童の仲間とのふれあい（友と歌おう）、地域とのふれあい（心けだかく）親子のふれあい（花とかおれ）、の三本柱を立てて学校の様子が紹介されています。

また、特色ある教育活動の一つとして「剣道推進教育」がありました。児童の体力の向上とスポーツ精神の振興のため昭和46年に剣道後援会が設立されて以来、脈々と続いてきたものです。竹刀を使った全校児童の剣道教室はスポ少の児童が中心となり、素振りは圧巻でした。今でも山城に響くかけ声が耳に焼き付いています。緑化教育の推進では、山城に移転される以前から県学校花壇コンクールで何度も入賞しておりそれが継続されてきました。地域連携の教育では、早朝作業や百万本記念植樹、サマーキャンプ等がありました。幼稚園では地域の家から招待されてのさくらんぼ狩りやイチゴ狩りがありました。まさに地域の中の学校・園という感じでした。



平成15年 運動会の表彰

思い出多い小学校・幼稚園が閉校・閉園するということは、寂しいことです。しかし、これからの生活の基盤となるべくみんなの心の宝物として、宝来小学校・幼稚園での思い出は永遠に生き続けていくことでしょう。



校歌

作詞 泉田 忠雄
作曲 海老名 仁平

一 栗駒山の空青く
流るる雲に 望みあり
この丘の上に 学びつつ
友と歌えば 胸がなる
仰ぐひとみも 清らかに
われらの光あれ
宝来小学校

二 金生川のせせらぎに
夕べは星の かけやさし
この故郷に むつみつつ
命みがかん 明日の日へ
心けだかく すこやかに
われらの誇りあれ
宝来小学校

三 見よ日本の朝ぼらけ
輝く窓に 理想あり
このよき国に 効みつつ
平和の道に 行くところ
花とかおれよ わが誓い
われらの栄あれ
宝来小学校





宝来小学校閉校に寄せて

昭和55年度～59年度勤務
教諭 加賀谷 宏次

私が宝来小学校にお世話になったのは、昭和55年4月1日～昭和60年3月31日までの5年間です。その間に、「昭和57年度文部省中央研修中堅教員研修講座」（筑波分館・40日間）及び昭和57年～58年度長期研修員「ふるさと教育」（宮城県教育研修センター・2年間）での研修があり、宝来小学校に勤務したのは実質3年間ということになります。

その中で、印象に残る思い出と言えば、二つ挙げられます。一つは、2年生6人を担任した時の出来事です。当時の宝来小学校（栗駒町芋塚）には縦15m・横7mの防火用水を兼ねたミニプールがありました。女の子でしたが、練習熱心なので付きっきりで指導した結果、50m泳ぐことができました。一番苦労したことは呼吸法を教えることでした。そこで町内水泳大会にエントリーしました。結果は当然最下位でしたが、競技に参加できた喜びで本人も指導者も大満足でした。



昭和58年 自転車安全教室

その二は、夜遅くまで練習したPTAバレーボールです。宝来四地区の大会に優勝すると栗駒町の大会・栗原の郡大会へと進みます。たしか町大会で敗退したかと思いますが、夜の練習で保護者と語り合ったり汗をかいたまま家に戻った記憶はなつかしい思い出です。

今、73才になって思うことは、「いつでも、どこでも、精一杯尽くせば、退職しても何ら気になることはない。」ということです。

宝来小学校での思い出

昭和59年度～平成元年度勤務
教諭 日野 紀子

私は、退職してすでに16年となりました。

宝来小学校に、お世話になったのが、昭和59年から平成元年までの5年間でした。

昔の木造校舎で、とてもなつかしく思い出されます。隙間が多く、冬は、とても寒かったですね。校門に入ると、それはそれは、美しい枝垂れ桜が咲き、出勤する私を迎えてくれました。その光景は、今でも忘れることができません。桜の木の下で、花を見ながら、子供たちと昼食をとったことが、とても懐かしく思い出されます。

現在の学校が建って、20年にならんとしている時に閉校になるのは、とても残念です。まだ、校舎は、きれいな事でしょう。

私の5年間の勤務の中で、社会福祉協議会より、3年間の「福祉体験学習実践校」の指定を受け、子供たちと力を合わせ、いろいろ活動したことが思い出されます。老人クラブのみなさんに教えられながら、ゲートボールをしたり、昔の遊び、宝来地区の歴史を学んだり、地域との交流をたくさんしました。その時の子供たちが、現在立派な社会人となり、活躍していることは、私にとって大きな喜びです。また、PTAの役員として、学校を支え、地域の中心となり活躍していることに、感銘を覚えます。

少子高齢化で、児童数が減り、合併せざるを得ない状況になったのでしょうか。将来いろいろ変化していくであろう社会情勢に、適応していかなければならないのです。家族の絆、地域の絆を大事にしなが、明るい人生を送るように祈っています。

私と一緒に勤務した先生方、子供たち、地域住民の皆様に感謝しております。

宝来地区の益々の御発展を祈念しております。楽しい思い出をありがとうございました。





音楽祭「ぞう列車がやってきた」の顛末

平成16年度～22年度勤務
教諭 阿部 敏彦

「今年の音楽祭は、ぞう列車をやってみませんか。」音楽主任のひろみ先生から提案があった時、何一つ考えていない私は、二つ返事で「よいでしょう」と答えたのでした。

しかし、伴奏を音楽主任がするとすると指揮は誰がするのか・・・よく分からないうちに指揮を担当することに。

初めての音楽祭指揮担当、栗原文化会館初デビューの始まりでした。しかし、音楽祭に出演する1年生から4年生と保護者の皆さんよりも練習を積まなければならないのは当の私自身でした。楽譜の読めない指揮者っていませんよね。手に持っているのは赤い表紙の進行表、楽譜は一切なし、子どもの台詞と楽曲の題名とテンポのみ。保護者の皆さんとの夜間練習では「指揮が曖昧で、歌えないわ!」と合唱部OBからの厳しい指摘。冷や汗だらり・・・発声のタイミング合わせ、そして、前半の山場「やって来る!」は、なかなかみんなの声が一つに合わない。それでも何度も何度も練習を重ね、とうとう発表へと自信を持って臨むことができるまでになりました。



平成17年 市音楽祭

ご夫婦での参加協力もあり一大合唱団の完成です。リハーサル室でのお父さんお母さん方の緊張をほぐす役は指揮者の仕事とばかりに愛想笑いをするのですが、鏡に映る自分の顔は緊張顔そのものでした。いよいよ本番。少し灯りがついたステージに、登場ただけで沢山の拍手。滑らかなピアノ伴奏のイントロ。よし成功だ。客席を前に立つ子どもたちと保護者は自信満々。そしていよいよ、最初の山場「やっ・・・やって来る一。」ん?一大合唱団はしる緊張と動揺に構わず微笑んで指揮を続けるT。伴奏者の顔が一瞬ゆがむのを見逃しませんでした。後日の反省会で袋だたきにあったのは想像に難くないでしょう。しかし指揮者Tはその後二度にわたってステージに立つことになったのでした。宝来小学校の保護者の皆さんと地域の方々には懐の深さと沢山のご教示をいただきました。閉校にあたり改めて感謝申し上げます。



花と校舎



平成22年 縄跳び





宝来幼稚園閉園にあたって

昭和57年度～61年度・平成21年度～22年度勤務
教諭 菅原 静子

既に栗原市立宝来幼稚園を退職して、早半年が過ぎました。思い出の貴園がもうすぐ閉園してしまうと思うと、とても寂しい気持ちで一杯です。私は縁が二回あり、通算7年間当園でお世話になりました。一度目は昭和57年4月。旧町立の時でした。思い出深いのは保護者の方々が、公民館に一同に会して、手作りのお料理を持ち寄り、真心のこもった歓迎会を催してくださったことです。この地で頑張ろうと心の片隅に決意しました。教育熱心で、地域一丸となり幼稚園のために惜しみなく御支援を頂きましたこと、大変感謝申し上げます。

当時は、旧校舎の中に幼稚園が同居しておりました。職員室も小学校と一緒にの部屋でしたが、幼小教育の連携が密接に行われました。保育室は6年生の隣で、迷惑をかけない様に、戸外遊びの保育に重点を置いたのも思い出です。自然豊かな地域を利用して園児と長者原へ散歩。前日、保護者の方が野原の草刈をなさったことに大変驚かされ、「教育は保護者や地域との連携である」事を強く感じました。渡丸での牛蛙のおたまじゃくし取りや、冬のそり遊び、館山公園や芋塚神社



平成22年 りんご狩り

での四季の草花の観察等、園児と共に過ごす毎日がとても新鮮で楽しかった思い出です。降園は先ず泉沢方面をお送りし、その後割山まで皆で手をつなぎ、毎日園児を送り届ける道行きが日課で、この5年間もあつという間でしたが、今となっては楽しいひとときとして、思い出されます。

平成21年4月に二度目の赴任。その当時小学生や園児だった子は立派に成長し、保護者として感動的な再会を果たしました。また当時PTA活動を推し進めていた方々も、区長さんや学校評議員として活躍されていて、往事を振り返り、再会はとても感無量で熱いものが込み上げて参りました。ご父兄、園児、学校関係者の皆様方に一つの歴史を見せて戴いた事に感謝申し上げます。

今後末永く、宝来地区の御発展を願っております。



平成21年 ひな祭り(幼稚園)



平成21年 絵本読み(幼稚園)



(幼稚園)
平成22年 クリスマス会



平成7年 お団子作り





みんなで子育て

平成12年度～14年度勤務
教諭 神田 永里美

宝来幼稚園は、小学校のすぐ隣に建っているので、いろいろな行事と一緒に参加させてもらいました。先生方や小学生の子供たちもいつも声をかけてくれて、みんな仲間という雰囲気があり、楽しく過ごせたという思いが残っています。

あの頃は、今のようにスクールバスがなかったので、毎日、お家の人の送迎でした。お父さんだったり、お母さん、おじいちゃんおばあちゃんと家族の中で交代で来ていただきました。いろんなお話をする機会が多く、子育てについてのおばあちゃん、おじいちゃんの知恵袋を教えてもらいましたね。家族みんなで子供を大切に育てている事を、いつも感じさせられました。子育てには、これはとても大事な事ですね。



平成12年 豆まき会(幼稚園)



平成13年 学芸会

また、学芸会のおゆうぎで袴を縫ってもらった事がありました。風呂敷を使っの袴でした。

「先生作ってあげるから」と気軽に言ってくれて、おっぴちゃんやおばあちゃん、お母さんみなであつという間に仕上げて頂きました。すばらしい出来上がりでした。何をするにも子供達のために！なんですね。袴を着て踊った子供達はとても輝いていました。あの頃出会ったみなさんの様に、子供を大切に、家族を大事にと心に思いながら、日々生活しています。家族的なあたたかい空気がいつも流れている宝来幼稚園で仕事をする事が出来て、本当に楽しかったです。幼稚園がなくなってしまうのは、淋しいですね。

今後末永く、宝来地区のご発展を願っております。



平成13年 幼年消防クラブ任命式



平成2年 遠足



平成6年 入園式



平成2年 新入園児





宝来ファミリー

平成17年度～20年度勤務
教諭 芳賀 淳子

宝来は、大きな一つの温かい『家族』です。

幼稚園には、がんばりやさんの子どもたちがいました。

できるようになるまで、たくさん、たくさん何回も練習をして、なわとびが上手になりました。プールで泳げるようになりました。かっこよく踊れるようになりました。いろいろなことができるようになりました。たくさん、たくさん考えて、おうちの人を喜ばせようと、生活発表会の劇を作ったり、保育参観でお店ごっこをしたりして、楽しませてくれました。幼稚園の子どもなのに、「こんなに考えられるんだ!」「こんなに頑張れるんだ!」「こんなにできるんだ」と、とても驚かされました。

そんな子どもたちには、いつも応援してくれる保護者の方、地域の方がいらっしゃいました。がんばっている姿を認め、たくさん拍手をしてくれました。自分の家の子もだけでなく、みんなに声援を送ってくれました。たくさんの方に応援してもらうので、子どもたちは、自信をもち、がんばることができました。

そして、とんりにはいつも優しい小学生のお兄さんとお姉さんがいました。休み時間には一緒に遊んでくれました。運動会や生活発表会では、お世話をしてくれました。その姿を見て、「優しいお姉さんになりたい」「かっこいいお兄さんになりたい」とあこがれ、大きくなることを楽しみにすることができました。

近くには、大好きなお山、『館山』がありました。みんなそこが大好きでいつもお散歩に出掛けました。春には桜の花を見に、お弁当を持って行きました。群生するカタクリの花に感動したり、秋には、アケビやドングリがなり、実りを教えてくれたりしました。四季を体験することができる素晴らしい場所でした。

ほんとうに、温かい大きな『家族』でした。私は、ずっと、ずっと、この思い出を大切にしていきたいと思います。



平成17年 一日入園



平成23年 七夕会



平成23年
サツマイモの収穫



平成4年 入園式





思い出

昭和24年度卒業 佐藤 虎男（芋塚）

この度、宝来小学校の閉校に当り、記念誌原稿のお話を受け、63年前の事を思い起しながらペンを執っています。私は昭和24年度の卒業です。同級生は46名でした。一教室でしたからいろいろな友達がいて、とても楽しく毎日元気に過ごした記憶があります。学校正面には石段がありました。登下校時には西・東に通学路があり、普段はその入口を通りました。春になると校舎の前と後にある桜が一斉に咲きました。今でも数本が残っており、美しい花を咲かせます。西側の入口には大きな柳の木がありました。校庭はとても狭く、西側には井戸と松の木があり、運動会ではコーナーがきついため走って転倒する児童が多かったように思いおこされます。

私達は、授業の終わるのを待ってすぐ校庭に出て夢中になって遊びました。校庭の脇に畑がありボールを拾うため畑に入り叱かれた事もありました。私達のクラスは授業中に騒いだ事も多々あり先生の注意も守らず、先生を大変困らせたことを今思い出しています。でも、宝来小学校は上級生が下級生と一緒に遊んでくれ面倒を見てくれる良い面があったように思います。



昭和18年 宝来分校母姉会結成記念

平成3年8月、宝来小学校解体前に同級会を開催、校舎前で記念撮影したのも思い出の一つです。恩師高橋昭二郎先生、氏家智枝子先生、佐藤とき先生方のご出席をいただき一夜を楽しく過ごしました。先生と生徒が一体となった雰囲気の中で、幼き日の事を心から語り合いました。叱られた事、褒められた事、童心にかえって本音を語ることが出来、絶対忘れられない思い出です。私達は良き先生方に恵まれました。

この度、宝来小学校開校から新校舎を含め130有余年の歴史に幕をおろす事になりました。長い間本当にありがとうございました。

リレー

昭和31年度卒業 鎌田 修（東京都）

姫松小学校宝来分校に入学して5年生から6年生に上がる時、宝来分校が宝来小学校に昇格となりました。ということで我々の年の人達は宝来小学校の第1回卒業生となったわけです。確か45名前後の人数だったと思います。卒業記念アルバムがあるわけでもなく、校歌もまだ無く、卒業式の模様は記憶に定かではありませんが、それまで6年生になると一里の道程を姫松本校に通わなければならなかったのに自分の家の目の前に宝来小学校が出来てホッとしたという記憶があります。

そして6年生になった時、本格的に陸上・野球をされていた体育系出身の加藤先生が赴任され、我が宝来小学校にも男女のリレーチームを作り、キチンとした指導をして下さいました。それまで単なるカケッコしかしてこなかった我々に、正しい足の上げ方、運び方、腕の振り方、バトンの渡し方、クラウチングスタートの仕方を教えてくれました。けど練習はとてもキツかったです。秋の運動会シーズンになるとあちこちの学校から招待リレーに招かれ、一走鎌田、二走高橋、三走渡辺、四走佐藤のメンバーでいつも首位争いに加わり独立した宝来小学校の名前を大いに広めたものです。と自分では思っています。

それにしても自分が生きてる間に宝来という地名が無くなり宝来小学校が消えてしまうとは思いませんでした。はるか縄文の時からアテルイ、栗原と綿々とつながる歴史を一走から四走で終えるのではなく、永遠にリレーしてもらいたいという想いがあります。そのような想いをつくる礎となっている、なってしまった宝来小学校、様々言い表わせない想いを込めまして、本当にありがとうございました。





郷愁の宝来小によせて

昭和37年度卒業 福澤 月美
(旧姓 佐藤 埼玉県)

故郷は今の時季、虫の音が響き、庭先には色とりどりの秋桜が咲き誇り、田圃では、黄金色に光る稲穂の絨毯が見られる神々しい風景を迎え、遙か彼方に望む栗駒山は、紅葉の錦絵に染まり、太陽のライトアップに輝いていることでしょう。(半世紀前にタイムスリップ)

さて、この度の宝来小学校閉校にあたりまして、クラスメートの面影を辿りながら、心のアルバムを覗いて見たい。私の頃は、幼稚園なるものではなく、

いきなりの1年生入学でDDT散布の洗礼を受け、あいうえおの読み書きがスタートでした。子供の足でも30分以上でこぼこ道を、雪に埋もれた道も、四季の風を道すがらに受けながら通学したことは、体力、気力の向上への元肥になり現在(いま)につながっている。勉強、勉強という時代ではなかったもので、楽しかった思い出がある。農繁期には、休み、田植え等親の手伝いが出来た。秋、刈り取り後の田圃に入り落ち穂拾い、いなご捕り、遠足を兼ねての当菓(千振)採り、勤労奉仕とでも言いましょうか。長者原という外堀がめぐつていてお城を思わせる高原に、白い花をつけた10cm前後の当菓採りは、楽しかった。ここでのお弁当は格別美味しくかった。この思い出にはロマン



昭和33年 P T A 奉仕作業「側溝工事」

を感じる。

給食等に縁がなかった冬のお弁当、ダルマストーブで温める位置どりが微妙でおもしろかった。温まりすぎて、沢庵のにおいに酔ったりで4時限目は、落ち着けない。このストーブの焚き付けに使う薪当番はしんどかった。重くて、手がかじかんで、ハアハア言いながら運んだ苦しい思い出。振り返る今、どれもこれも懐かしくて微笑ましい。

運動会の紅白対抗リレー、学芸会。映画館(築館)

での初めての映画観賞。モスラーヤと歌いながら画面に現れた、ザ・ピーナッツの姿が焼きついている。30人たらずのクラスメートの遊び、ドッジボール、ゴム段飛び、石けり等、夢中になり楽しかった。

思い出せないのが修学旅行。残念です。



昭和34年 修学旅行



昭和34年頃 父ちゃんバレー

昭和34年頃
母ちゃんバレー



校門





回想から

昭和40年度卒業 高橋 實 (田高田)

私は今、66名の子どもがいる小学校に勤務しています。私の小学校時代とほぼ同じ規模の学校です。

子どもたちは、学級担任だけでなく全教職員に見守られて巣立っています。朝、「おはようございます。」と子どもから挨拶されると、その子の話から仕事が始まります。学習や生活面、スポーツでの活躍、地域での様子などたくさんの方が職員室で話題になることがあります。

子ども一人一人の事を共有し合うことができるのです。小規模校としての長所です。私の小学校時代も同じようだったのかな、と思うことがあります。母校閉校は残念に思いますが、思い出を三つ紹介することにします。

一つ目は、私が五年生の時のことです。先生方と学区民の願いと援助で『鼓笛隊』ができました。当時は郡内のどの小学校にも鼓笛隊はあったと思いますが、宝来っ子にとっては一大ニュースでした。丁度、東京オリンピックの開催年でした。国道4号線を走る聖火ランナーを激励演奏するため、リヤカーに楽器を積んで宮野地区まで歩いて行ったことを覚えています。



昭和36年 卒業式

二つ目は『校歌』が制定されたことです。遠足の度にガイドさんから「皆さんの学校の校歌を歌って下さい。」と言われても、校歌という言葉さえ知りませんでした。6年生になってから校歌が出来ました。歌詞の意味や歌い方を教えられ、初めてその制定の意義を知りました。

三つ目は『校歌』制定の年度末に町田地区にあった分校が閉校したことです。分校の後輩は尾松小学校に通学することになりました。卒業式の数日後、本校と分校の合同修了式が初めて行われ、私たち卒業生は後輩のために校歌を歌ったことを覚えています。

かいつまんだ回想になりました。子どもたちから小学校時代の思い出話を請われてこのような話をすると、母校への「想い」はますます膨らんでいくことでしょう。



昭和35年
菊池質様より校旗寄贈



昭和35年 入学式



昭和37年
校庭拡張工事





宝来小学校と共に

昭和40年度卒業 高橋 俊子（田高田）

宝来小学校の思い出は、5・6年生担任の先生との出会いです。思い返せば、いつも怒鳴られていたような気がします。3・4年生でたっぷり遊んだ私たちは5年生になっても勉強する気がなかったのだから「勉強しねえと中学校にやらねえぞお」と喝を入れられ、それからかけ算九九や漢字書き取りを必死に勉強しました。なんとかやる気を起こした私たちに、鼓笛隊の楽しさを教えてくれました。みんな初めてなので何の楽器をやりたいのか迷っていました。

私は小太鼓をやりたいのですが、リズム感が悪いと言われピアノになり、下級生2人で細々と楽しく練習した成果を運動会で披露した時は、とてもうれしかったです。また私たちの時に校歌ができて、みんなで喜びを感じながら歌ったことは忘れられません。また、校舎が木造だったのでぬくもりがあり親しみがありました。私は特に廊下が好きでした。糠でピカピカに磨いた廊下を下級生も一緒にくつ下で滑りっこ競争をするのがおもしろかったからです。その宝来の幼稚園に勤務でき感無量でした。

子どもたちと春には、桜の木の下でお弁当をひろげ、秋には芋塚神社の紅葉狩り、近くの堀っこで魚つかみと自然とたっぷり触れ合い、充実した日々を過ごすことができ、感謝しています。ところが学校は不動なものと想っていたら校舎が田高田地区に移転したので驚きました。その校舎2年目に娘が入学し、2階建て校舎で学び、オープンラウンジで給食を食べ、プールで思いっきり泳いでとても良い環境で育ちました。その反面この頃から児童数が減り、とうとう閉校することになりました。母校がなくなり、勤務地がなくなり淋しいですが、宝来小学校の一人一人を大切に、個性を生かした教育をしてくださった先生方に感謝しつつ、宝来小学校の卒業生で良かったと思います。今、叱ってくれた大好きな恩師を囲んで「絆」を深めたいと思っています。たくさんの思い出を作ってくれた宝来小学校ありがとう。さようなら。



昭和37年 庭園作り

思い出

昭和42年度卒業 佐藤 幸記（泉沢）

私が通った旧宝来小学校は木造でした。体育館、プールはありませんでした。校庭は狭く、徒競争で1周するときにコーナーがきつく体を相当傾けて走ったものでした。

現在の校舎は、鉄筋コンクリート造りですし、体育館、プールがあり、校庭も広く、良い環境で学べることは、幸せだと思います。

今年度をもって、宝来小学校・宝来幼稚園が閉校・閉園となることを知り寂しく思います。

さて、小学校時代の思い出はと言いますと、3月の地震で記憶を新たにされた宮城県北部地震（昭和37年4月30日）です。

あれは、私がピカピカの1年生になり1月が過ぎようとする時期でした。当時、担任の氏家先生の指示で机の下に避難した覚えがあります。午前中に集団下校となったと思います。

その帰り道はどうなっていたかと言いますと、地割れがあちらこちらにいっぱいありました。余震は、ひっきりなしにありましたし、子供心にとっても怖かったものでした。

また、楽しい思い出はと言いますと、5年か6年生の時と思いますが、夏休みにサイクリングをしました。旧一迫町真坂地区の一迫川堰での水遊びや河原での炊飯をしたものでした。小学生が片道10kmの行程のサイクリングをしたが疲れを感じなかったのが不思議です。すべて砂利道だったんですから。

おわりに、来年度から、栗駒南小学校に通う児童のみなさんは、宝来小学校の良いところを持ち続けて、学校生活を送ってください。





私達から子供へつながった宝来小学校

昭和52年度卒業 木村 玲子（渡丸）

私の宝来幼稚園入園は、昭和46年4月、現宝来の里の所で、木造平屋の校舎、わたり廊下を通ると音楽室、図書室、理科室があり、池や遊具、桜並木にかこまれた大きな学校と子供の頃は感じていました。全学年つながる長い廊下は走るのは楽しかったけれど、雑巾がけは大変だった。小学1年の時、早く学校へ行きたくて朝食も取らずに学校に一番のり。風邪をこじらせて入院。進級も危なくなり、担任の先生に迷惑をかけました。

春は運動会。鼓笛隊で鉄琴をたたいて演奏、校庭内をマーチングして緊張もしたけど、結構みごとでした。

夏はプールに通った後、ソフトボール練習、そして大会、水泳大会など、全員で取り組んでチームを作って楽しかった。

秋は校内マラソン大会。学校~渡丸~泉沢の往復、沿道の声援をもらって走り通した思い出があります。その後芋塚川の川原で恒例のいも煮会があり、かまどで火をおこし、芋煮を全児童で班別に作って食べて本当においしかった。

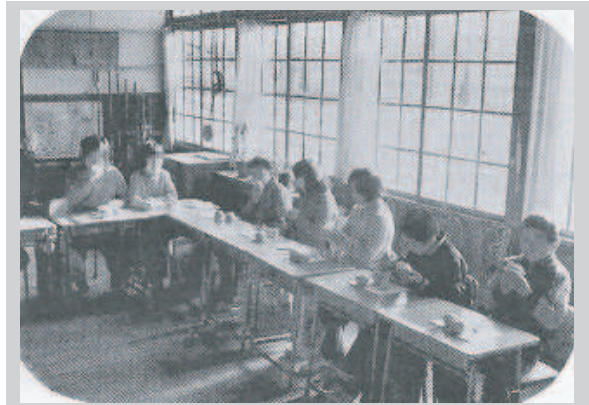
冬はサッカー、長縄とび、雪あそび、たこ上げ大会、ダルマストーブにコークス運び、とにかく暖かかった。

流れる校歌はなつかしく時は過ぎ、現在の宝来幼稚園。再スタートは、長女入園の平成7年4月。徒歩通学を基本としていたので、3kmの道のりを長女と私は弟をおぶり何度も歩く練習と道草も。これも又、楽しかった。割山の工事の頃、親子ぐま出現！ という時もあり、迎えに行ってもゆっくり歩いて来る子供たちを誰も怒らなかつた。温かく育ててくれていたと思っています。

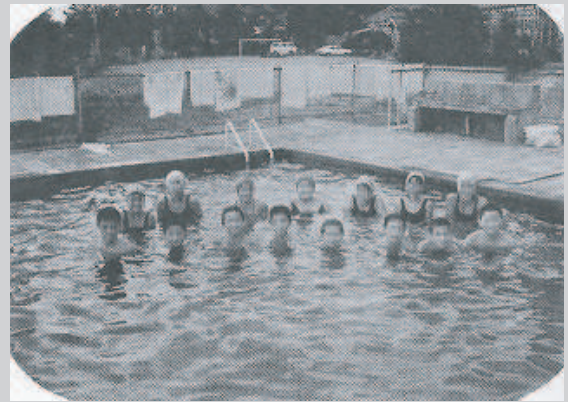
その後スクールバスとなり、時代は変わったけれど、宝来小学校の校歌を聞くたびに穏やかな気持ちになります。

運動会や学芸会のお弁当をかこみながら、家族の喜び、地域の人々との何気ない会話が子供達を育て見守ってくれていた宝来小学校がなくなる事は残念でなりません。

今までありがとう。そしてさようなら我母校宝来小学校。



昭和50年 お楽しみ会



昭和51年 プールに入って



昭和50年 徒競走



昭和51年 七夕集会





ありがとう 宝来小学校

昭和52年度卒業 鈴木 泰広（渡丸）

思い起こせば39年前、宝来小学校に入学し、花の学校生活がスタートしました。月日が立つのは早いもので、今回この原稿を書かせて頂き、改めて当時を振り返りなつかしさでいっぱいです。

木造作りの平校舎、床ワックスの香り、ダルマストーブ、せまい校庭、15mプール、私達が在校時にできた体育館前の遊具等、なつかしさでいっぱいです。色々な思い出が学年事にたくさんあるのですが、今回15人の仲間と、2人の恩師についてこの紙面をお借りして、是非名前をあげさせていただきます。

佐藤悟君、玉田喜則君、高橋洋一君、菅原広幸君、佐藤昭彦君、佐藤芳郎君、高橋昭彦君、佐藤修子さん、玉田勝美さん、氏家広美さん、木村玲子さん、泉田美幸さん、佐藤芳さん、佐藤豊子さん、私の大切な同級生です。皆にたくさんの思い出と宝物を頂きました。

そして鹿野次子先生、鎌田重三先生には、今の私の人格の基礎を作って頂きました。キリっとした御二人の立ち姿は、今も忘れません。ありがとうございました。

私達の当時は、児童会活動が活発で、子供達が主体となり色々な行事を計画しました。

その一つが校内マラソン大会後に、芋塚川のほとりで行った、野外炊飯です。各地区でリヤカーを引きながら、物資を運び全員で食べた、いも煮の味は格別でした。またみんなが遊びの天才で、四季折々の遊びを楽しみました。まさしく校名の通り、地区の宝が小学校に来て、良き伝統と、思い出を作ってきた気がします。

いつまでも宝来小学校が存在し、伝統が受け継がれていくと思っておりました。私達を含め在校生も宝来小学校が大好きです。いつまでも皆様の心に、この校名を刻み、胸をはっていきたいと思います。

あゝ光あれ、誇りあれ、栄えあれ、われらの宝来小学校 ありがとう 宝来小学校



平成元年 旧校舎航空写真



昭和54年 冬の校舎





礎

昭和56年度卒業 鈴木 美和 (カナダ)

私が小学校を卒業したのは昭和57年の春、その当時の全校生徒数は60人くらいだったと思います。私の学年は男子5人、女子5人と全員で10人。担任の先生の名前とどんな先生だったかは今でも印象深く覚えています。長谷川絹子先生、齋藤幸雄先生、尾崎ますみ先生、1人の先生に2年ずつ教えて頂きました。どの先生も子供たちのことを第一に考えてくれる熱心な先生方でした。今思えばかなり贅沢な教育環境で小学生時代を過ごしました。責任ある大人たちと、自然に囲まれ、のびのびと学ぶことができたと思います。

小学生時代の思い出はたくさんありますが一番の思い出と言えば、教室の真ん中に置かれていたまん丸ストーブでしょうか。今では考えられないでしょうが、コークスを燃料にした鉄製のストーブです。冬の寒い時期になると、当番の人が朝早めに学校に来てストーブに火を入れます。この火の入れ方にはかなりのコツがあり、失敗すると教室中煙だらけになってしまうのです。早く登校していた生徒たちは腹ばいになって教室から脱出します。そして、窓を全開にし煙を外に出します。普段から親に「火遊びはしちゃいけません」などと言われていた私たちにとっては、公に火と戯れられる絶好のチャンスでした。思い起こせば当時の私たちにとってはかなりエキサイティングな冬の行事でした。

私は現在、カナダのバンクーバーと言う町に住んでいます。カナダの中では中規模都市で、仙台市ぐらいです。こちらの小学校教育でも、できるだけ少人数制で一人ひとりに行き届いた教育をしようとしています。しかしながら、人口の増加で難しいのが現状です。

私は宝来小学校で勉強は勿論のことですが、それよりもっと大切な人間性を学びました。そして、それは今でも私の大きな大きな大黒柱になっています。

ありがとう宝来小学校、いつまでも私の心の故郷。



昭和55年 修学旅行



昭和54年
松島野外活動センターにて



昭和53年 芋煮会



昭和54年 学芸会





宝来小学校閉校にあたり

平成3年度卒業 佐藤 紀章（千葉県）

宝来小学校・幼稚園が今年度をもって閉校・閉園するというのを聞き、本当に驚いております。確かに、少子化という時代の流れには我々も逆らえず、再編やそれに伴う閉校というのはメディア等でも散々見聞きしていたとはいえ、まさか自分の母校がそのようになってしまおうとは考えもしておりませんでした。私は現在の学校には通っておりませんが、何らかの形で残して頂ければ幸いです。

さて、私にとって幼稚園・小学校というと、何か学校というよりも、家族的なところがあつたように思います。当時の全校児童は確か60人前後、1学年1クラスで、私の同級生は11人（確か小学校4年生までは13人いたはずで、4年生の時に男子2人が転校していったように記憶しております。）という少なさでしたが、かえってそれが良かったように思います。当時といえば、まだ学校が田高田でなく、芋塚（現在の宝来の里）にあり、築百年は経っているのではないかという位の建物であったのを覚えております。そんな中で、夏は汗をかきながら、冬はすきま風の寒さにふるえつつダルマストーブをかこみ、勉強に励んでいたのを覚えています。また、1周150m程度の小さなグラウンドでの運動会もありました。確か、小学校高学年位だったと思いますが、運動会の終盤で、リレーか何かの走る競技で、途中で大雨に降られ、ずぶ濡れになりながら走ったのも良い思い出です。

このようにいろいろな思い出のつまった学校も、我々が卒業する年に、移転により取り壊されることから、卒業とともに記念式典も実施したのも覚えております。

最後になりますが、私は現在、自衛官として東京都内で勤務しておりますが、この学校で得たものを生かし、今後も勤務に励むことを誓い、終わりいたします。

「ありがとう、宝来小学校」

平成11年度卒業 佐藤 淳（大崎市）

私が宝来小学校を卒業して、もう12年が過ぎました。当時は、全校児童が約60名程で、同級生は12名でした。他の学校と比べると少ない人数でしたが、学年の関係なしに仲が良く、いつも学校には笑いが響いていました。

小学校時代を振り返ると、数多くの思い出が蘇ってきます。5月は運動会、6月には遠足、秋にはマラソン大会や学芸会など、次から次へと行事がありました。その中でも一番の思い出は、小学4年生の時に参加した郡音楽祭です。演題は「雪渡り」で、1年生から4年生までが一緒に参加しました。その時、私は主人公である兄弟の兄（四郎）役を演じることになり、郡音楽祭を担当された岩淵優子先生のご指導のもと、朝や放課後の時間に練習を行いました。今でも覚えています。その時の練習はとても厳しいものでした。また、本番で着用した衣装はすべて手作りでチャンチャンは祖母が縫ってくれたもの、つまごわらじは、祖父にわらで編んでもらいました。音楽祭当日、私は緊張で胸が張り裂けそうでしたが、全員が気持ちを一つに堂々と演技を行いました。その時の達成感はとても素晴らしいもので、今でも覚えています。

また、私は小学2年生から宝来小学校剣道教室で竹刀を握り、現在も剣道を続けています。恩師は長井孝先生で、5年間ご指導していただきました。毎週火・木・土曜日の練習に加え、遠征や大会を通して剣道の技術だけでなく、礼儀作法や感謝の心を学ぶことができました。今年度で思い出の宝来小学校が閉校になることを知り、とても寂しい気持ちでいっぱいです。しかし、今度は尾松小学校と再編になり、新たな伝統を築いていかれることを期待しております。

最後になりますが、今の私があるのも宝来小学校で学んだ6年間のお陰であると実感しております。当時、お世話になった先生方、同じ時間を過ごした仲間達、そして、地域の方々すべてに対しまして深く感謝しております。

「ありがとう、宝来小学校」。



平成11年 授業の様子





宝来小学校の思い出

平成12年度卒業 高橋 千束（田高田）

私が宝来小学校を卒業してから11年が過ぎました。

それでも同級生17人は仲がよく、卒業当時の倍近い23歳になった今でも誰かが帰ってくるとバーベキューだ、飲み会だと集まっています。

こんなに仲良くいられるのは、たった6年の小学校生活のなかに共有した楽しくて忘れられない思い出がたくさんあるからだと思います。

- 人数が少ない！（体育館での運動会だって余裕）
- 学芸会では一人二役で劇をする、（超長ゼリフ）
- 人がいないから運動が得意な子も苦手な子も、全員が宝来小学校の代表として水泳大会や陸上大会に出る。（とにかく全員参加）
- そのために強化練習がある。（ガッタガタに震えながら泳ぎ続けた日々）
- 毎年オペレッタをする。（これも今でもちょっと口ずさめるほど練習）

もっともっとあるけれど、「無理でしょ」と思うことにも「やりたくないな」ということにも精一杯（半ば強制的だけど！）みんなで取り組んだというのが特徴だと思います。

そして、そのときの私達の精一杯のがんばりを、先生方や家族はちゃんと見ていてくれました。最後の授業参観では、卒業式でもないのに見に来ていたお父さんお母さんたちが号泣していて、先生も泣いていました。今思い出すとちょっと笑ってしまうけど、これも忘れられない思い出のひとつです。なぜかとっても嬉しかったのを覚えています。先生方やそれぞれの家族は、本当に私達17人をいつも近くであたたかく見守り、応援してくれていたのですね。だからこそ私達もさまざまな場面でがんばれたのかもしれません。

宝来を出た私が思うことは、豊かな人間関係は、関わる人数が多いことではない、ということです。同じ考えの人がいっぱい集まっているのとも違う、一人一人の違いが認められる関係です。一人一人得意なことも苦手なことも全部やって、お互いのがんばりを見ていて、ただ比較するんじゃなくて自分とは違うところを認められる、そんな環境で育ててもらったから、住む場所も性格も考え方も違う宝来っ子との今の関係性があると思います。

社会に出てからは特に、大人になってから友達を作るのは難しいと実感しています。これからも面白くてやさしくて会うたびに变化していく宝来っ子との関係を大切にしていきたいです。宝来小学校を卒業できて良かったなと改めて思います。育てていただいた先生方、地域のみなさま、本当にありがとうございました。



平成12年 ALTの授業



平成12年 給食風景





私の原点

平成13年度卒業 三浦 真依（町田）

私が通っていた頃の宝来小学校の特徴と言えば、なんと言っても「少人数」の環境だと思います。私の学年は、全員でたったの9人でした。体育や音楽の授業は2学年合同で行い、一つ下の弟と一緒に授業を受けることもしばしばありました。

「少人数」の環境の良さは、「一人ひとりが主役になれる」ということだと思います。私は小学校3年生まで運動が苦手で、あまり好きではありませんでした。しかし、当時の宝来小学校では4年生になると運動が得意でも苦手でも、5・6年生に混じって陸上大会や水泳大会の練習に参加させられました。児童数の少ない学校だからこそのことだと思います。学校の代表として大会に向けて懸命に練習に励む先輩方の姿はとても輝いて見え、私もそうなりたいという思いが芽生えました。そこから自然と運動が好きになったのです。走るのも、泳ぐのも、決して特別速い記録ではありませんが、あの運動嫌いのどんくさかった私が、それなりの記録を出せるようになったのです。5年生の陸上大会で入賞した時は、両親も驚いていました。それをきっかけにミニバスケットボールを始め、中学校でもバスケットボール部に所属しました。きっと小学校での経験がなければ、運動を通して味わえる喜びや悔しさを得ることは出来なかったと思っています。

委員会やクラブ活動などの児童会行事でも、一人ひとりに委員長や班長などの責任のある役割が与えられ、責任感や積極性を小学校の頃から身に付けることが出来ました。私がその後の学校生活で生徒会の役員や学校行事の実行委員を務めることが多かったのも、小学校での経験が大きく関わっています。

「少人数」という環境は、私の原点です。大学も、少人数教育を大切にしている学校を選びました。母校がなくなってしまうのはとても寂しいですが、これからも宝来小学校での経験や思い出を大切にしながら、今後の人生を歩んでいきたいです。

思い出いっぱいの 宝来小学校・幼稚園

平成16年度卒業 佐藤 貴信（芋塚）

私が最初に宝来小学校・幼稚園が閉校になると聞いたのは3年位前でした。元々市内の学校の中でも児童数がとても少なく、私が小学校を卒業する時も、全校児童は60人程でした。しかし、今回実際に閉校するという事で、記念誌の原稿を依頼されると、お世話になった学校・幼稚園での思い出がたくさん甦り少し悲しくなりました。運動会での応援合戦は、みんなで考えた替え歌や振り付けがとても盛り上がりました。また、最後の競技の全校リレーは1年生から6年生が班ごとに分かれ、一つのバトンをみんなでつなぎ、ゴールを目指して一生懸命走りました。

修学旅行は、1学年の人数が少ないので5・6年一緒に旅行でした。一日目の自主研修では、班ごとに決めたコースを自分達だけで周らなければならず、班のメンバー全員で協力し合って集合場所までたどり着いたことを覚えています。

学芸会では、人数が少ないことから一人一人の役のセリフが多く覚えるのが大変でしたが、みんなが存在感のある役柄になれたので、むしろ良かったかなと思っています。

人数が少なかったことで、たいへんなこともありました。それ以上に少なかったことで、いろいろな事を経験し、たくさんのお話を学ぶことができたと思っています。

たくさんのお話は大人になっても決して忘れることはないと思いますし、自分の貴重な宝物です。

宝来小学校・幼稚園、たくさんのお話をありがとう。



平成17年 児童集合





「宝来小学校、宝物をありがとう」

平成16年度卒業 阿部 叶恵（西田）

私の宝来小学校での思い出を三つ紹介させて下さい。

一つ目は、3年生の時に「宝来かるた」を作った事です。実際に、先生とクラスの皆で宝来6地区を歩いて、宝来の里や田高田神社、泉昌寺などの建物や、金生川、草花などの自然の風景など、それぞれ印象に残ったものをおかるたの題材にしました。皆で宝来の良い所を見つけられた、とても楽しい授業でした。

二つ目は、4年生の時の学芸会です。「地上最強のロボット」は、6年間いろいろな劇をやりましたが、一番印象に残っている劇です。それは、悲しいお話だったからです。主人公は、悪の組織によって世界征服の目的で作られた姉弟のロボット、姉のマリアと弟のタイタンです。ロボットなのに「心」を持っていて、自分達が作られた目的を知った2人は、人間の友達を守るため、悪の組織と戦い最後は宇宙へ飛び自爆する道を選びます。私は、こういうお話に弱くて、感情移入してしまっただけで学芸会の練習が始まって本番当日まで、なんだか悲しい気持ちで過ごしていました。本番では、観客の皆さんもとても感動してくださって、クラス皆で喜び合った事を覚えています。

三つ目の思い出は、6年生の時に「皆既日食」をクラス皆で見れた事です。担任の先生が、ちゃんと日食を見る特殊なメガネを全員分用意して下さっていて、教室のベランダから見ました。6年生といえば、修学旅行などの思い出もありましたが、私は、あの太陽が月に隠れる神秘的な瞬間を、皆と一緒に興奮して見られたのがとても思い出になりました。

今回、思い出を振り返って、私の胸は懐かしさで一杯になりました。6年間お世話になった宝来小学校が閉校してしまうのはとても寂しいです。ああ、もう一度食べたいあの給食！皆さんは、何が一番好きでしたか？私はカレーうどんとささ身のレモン煮と抹茶ゼリーでした。



平成16年 プールの中で

ふと考えたこと

平成17年度卒業 高橋 琴美（泉沢）

小学校に入学するにあたり、当時の私は4kmもの道のりを徒歩で通うことにもものすごい絶望感を覚えた記憶があります。そして、宝来の地域は入学シーズンはまだ少し寒くて、桜の季節と言いつてもはつきり覚えています。つまりは、小学校への第一印象は最悪だったわけです。幼稚園と隣り合っていたけれど、小学校は当時の私にとっては未知なるものでした。

そんな宝来小学校へ、まだ入学もしていないのに、最悪の第一印象を抱いていました。実際4kmの道のりはろくに歩いたこともない私にとっては過酷なものでした。朝早く起きて歩く。子どもながらに心の底からうんざりしていました。しかし、私よりも、もっとうんざりしていたのは上級生の人だったんじゃないかなあと思います。寄り道がすきで、しかも体力もないからすぐしゃがみ込んでしまう。そんな私に毎日付き合ってくれた上級生のお兄さんやお姉さん。昔は全く気づかなかったけど、この文を書くにあたり、思い出しては感謝の気持ちでいっぱいです。中学年になりスクールバスが導入されましたが、あの道を歩いたことはいつまでも忘れられない思い出です。また、給食も忘れられない思い出の一つです。高校生になった今、給食がうらやましく思います。バイキングがあったし、何よりもすごくおいしくて、正直給食が学校の時間で一番好きだったような。それもまた、給食を作ってくれる人がいたから成立していて、あのとき当たり前だったことが当たり前じゃないんだと、痛感しました。

私の母校も、当たり前に存在していたんじゃないかなって思っています。第一印象最悪って思っただけで、宝来小学校大好きです。私の大切な思い出の場所です。今まで本当にありがとう。バイバイ。





沢山の笑いと涙、笑顔いっぱいの生活

平成18年度卒業 芳賀 梨菜（西田）

私の宝来での8年間は、楽しい事、嬉しい事、辛い事など沢山ありました。

私が宝来小学校に入学してからの2年間は自分の地区から学校まで毎日歩きました。3年生あたりからはスクールバス通学がはじまり少し楽になり、毎日バスの中が楽しかった事を覚えています。それから毎日11人という少ない人数ではありましたが、楽しく過ごすことができたと思います。



平成18年 パソコンの授業

私の一番の思い出は6年生のすべての行事です。宝来小学校のリーダーとなり、下級生を引っ張ることに、不安はみんなもあつたと思います。でもそれに文句一つ言わず私達についてきてくれた下級生に今でも感謝しています。それから、私達は自然にも環境にも先生方にも恵まれたんだと思います。今、恵まれた環境にいられるのは家族や地域の方や先生方のお陰だと思っています。

私の幼稚園・小学校生活8年間は、たくさんの笑いと涙とみんなの笑顔がいっぱいの生活でした。

思い出いっぱいの宝来小学校・宝来幼稚園の校舎や校歌とも、お別れをするのは正直寂しいです。再編する尾松小学校の人は校舎があるかもしれませんが、新しい名前の学校になるのは同じだと思います。それに早く馴染めるように頑張ってほしいし、伝統も再編するそれぞれの学校のいい所を取り入れた、オリジナルの伝統を作ってほしいと思います。「伝統」は守るだけが伝統ではなく、その「伝統」を軸に新たなものを作るからこそ伝統だ、と私は思っているの、みんなには頑張ってもらいたいと思います。

本当に、宝来という地域で育ったことを誇りに思い、感謝の気持ちでいっぱいです。ここまで私達を育ててくれた先生方、地域の方、それに家族、宝来小学校、幼稚園本当にありがとうございました。



平成18年
学年PTA行事



平成15年 ポート運び





宝来小学校での思い出

平成21年度卒業 木村 大寿（渡丸）

私が宝来小学校に入学したのは、今から8年前です。友達は、幼稚園からそのまま一緒の7名の友達。狩野翔之介くん、佐藤真美さん、石垣友則くん、鈴木穂香さん、松盛意気くん、熊谷芽衣さん、佐藤和くんと木村大寿の8名、何をするにも一緒、仲が良く昼休みは、校庭に出てとにかく体を動かして遊んでいました。様々な大会での思い出、志津川合宿や修学旅行など人数は少なくて大変なこともあったけどみんな良い思い出です。

中でも忘れられないのは男子5人で剣道の練習を頑張ったこと。私は小学2年生の時、意気君に誘われて、始めました。冬の練習では、たい焼きが食べられる。たい焼きにつられての入会でした。始めた頃は、いつも先輩に竹刀でたたかれ、「何で入ってしまったんだろう？」と後悔したこともありました。冬の寒さ、試合の日の早起きにも次第に慣れ「継続は力なり。」とはよく言ったものです。男子5人で力を合わせ、6年生の時には、優勝することが出来たのです。本当に信じられませんでした。優勝旗を手にした時のことは今でも心に残っています。

中学生になり、それぞれクラスも分かれ部活動も進む道は違いますが、ちっちゃな学校・1学年が8名の僕達の宝来小学校ですが、とても大きな宝物を運んで来てくれた忘れられない小学校です。地域に根差した宝来小学校が新たな学校として生まれ変わろうとしている今、宝来小学校の思い出は私達の心の中にいつまでも生き続けることでしょう。

ありがとう 7名の友達 ありがとう 宝来小学校



平成20年 祖父母交流



第6回小牛田山神社杯少年剣道大会優勝

平成19年 志津川研修



平成21年 持久走大会



あさひ 宮城県志津川自然の家研修記念
平成19年7月5日





思い出いっぱい宝来小学校

平成21年度卒業 熊谷 芽衣 (町田)

私は、平成16年に宝来小学校に入学しました。同級生は、大寿君、翔之介君、友則君、和君、意気君、真美さん、穂香さん、私の八人でした。

全校児童もその年で57人でしたが、毎年全校児童は減っていき、私が3年の時に、2・3年生での複式学級が始まりました。今まで広く感じた教室も、2学年一緒になると、とても狭く感じ、勉強も2学年一緒の時はにぎやかすぎて大変だったことを覚えています。でも、別々に勉強する時は、教頭先生にも授業を教えてもらえて楽しかったです。

4年生になり、初めて泊まりで合宿がありました。それまでは、5・6年生で1年おきに合宿と修学旅行をしていましたが、6年生の時に修学旅行に行くようになったので、4年生から合宿という形になったそうです。すごく不安だったけど、上級生の人達が優しくしてくれて楽しく2泊3日過ごすことができました。

会津へ行った修学旅行も、自主研修があり楽しかった思い出の一つです。



平成20年 芋掘り

毎年たくさんの行事がありましたが、1年生から4年生で参加した市の音楽祭も忘れられません。栗原市文化会館の大きなステージでのオペレッタの発表は、毎回ドキドキでした。私が2年生の時には、親子で「ぞう列車がやってきた」というオペレッタをしました。

宝来小といえば、美味しい給食も自慢でした。メニューも、花見弁当、バイキング、卒業前には、テーブルマナーもしました。いつもほとんどが手作りで、もう一度食べたいです。

再編してしまうと、宝来という名前も校歌も無くなってしまい寂しい気持ちでいっぱいですが、幼稚園から6年生まで過ごした8年間の思い出は、いつまでも自分の心の中に大切にしていきたいと思います。



平成22年 学習発表会



平成21年 しめ縄作り





「思い出の宝来小学校」

平成23年度 芋塚地区委員長
吉田 俊樹

長い伝統と歴史のある、宝来小学校も時代の流れに逆らえず、平成24年3月をもって長い歴史の幕を閉じる事は、とても寂しく大変残念に思います。

平成24年4月からは、尾松小学校と再編し、栗駒南小学校として新しく歴史のスタートを切り、子ども達の思い出の学校となることと思います。

私自身、現校舎ではなく、芋塚川沿いにあった旧校舎で小学校生活6年間を過ごしました。宝来小学校といえば、生徒の数が少なく、先生方も10数人、校庭はせまく陸上大会の練習時には、100m走の練習は先生方の駐車場まで使用する状況でした。ソフトボールをやれば毎回田んぼにボールが飛んでいく。それくらいせまい校庭でした。またプールもせまく、飛び込むとすぐに反対側に着いてしまう。飛び込み時に深く飛び込むと、頭をプールの底にぶつけてしまう、本当にせまいプールでした。校舎は現在のコンクリートの建物ではなく、木造校舎で、冬はすき間風が入ってきてとても寒く、廊下で転んだりすると、とげがささったりと不便な校舎ではありましたが、言葉では言い表せない温かさがあった学校だったと思います。

家族全員で応援してくれた運動会、笑いや感動、そして涙を流した学芸会。眠れずみんなで夜遅くまで起きていた修学旅行。すべてが忘れる事はなく、心の中に残っており走馬燈のように浮かんでいきます。

このような環境の中で6年間過ごした月日は、私にとっては宝物であり、良き思い出です。

旧校舎では、私の祖父、父親が、現校舎では私の弟、そして息子2人が通った学校です。そんな長い歴史のある宝来小学校で学べた事を誇りに思います。

宝来小学校よ、長い間本当にご苦勞様でした

さようなら。

思い出をいっぱいありがとう！



大正10年頃 バルコニーのある校舎



大正10年 第1回尋常科卒業記念

大正時代



大正13年 5年生卒業



大正14年 宝来分教場 第1回修学旅行





宝来小学校の思い出

平成23年度 渡丸地区委員長
千田 昭

宝来小学校の閉校にあたり、一言申し上げます。

長い歴史のある旧校舎から移転し20年、今年度をもって閉校となることは寂しく残念な事です。私は昭和50年度の卒業です。思い出は旧校舎の事となりますが、グラウンドが狭く、曲がりきれず転んだり、野球をすると田圃に何度もボールを取りに行ったり、体育の授業で剣道をやった事や階段でやったビー玉などが思い出されます。先生と共にここで学び、喜び、楽しみ、怒り、悲しみ教職員の温かさが今でも思い出されます。

新体制となり、新校舎に子供を通わせるようになり、また違った思い出が出来ました。初めての入園式、運動会、学習発表会、初めての建物で、子供と共にいろいろな初めての体験をしてきました。ですが、少子高齢化により、教育の分野においても変革が求められ、よもや母校が閉校になるとは考えておりませんでした。今年度で閉校となりますが、この地で学び、この地で教えていただいた全ての人が宝来小学校の事を心に刻み、そして思い出を語り繋いでいければと思います。

平成24年4月から栗駒南小学校としてスタートします。宝来小学校で学んだ貴重な体験を忘れる事なくこれからの学校生活を大いに頑張って貰いたいと思います。

子供たちに明日の夢を託し、地域発展の為に努力をされた諸先生方、PTA関係者の皆様に敬意を表し、閉校に贈る私の寄稿と致します。

昭和初期



昭和12年 旧校門「お別れ会」



昭和12年 入学式を終えて

昭和元年 入学記念





万感胸に

平成23年度 泉沢地区委員長
佐藤 修

明治からの長い歴史をもつ宝来小学校の閉校。少子化の進む時代の流れの一言で片付けるにはあまりにも寂しく、残念な気がします。今の時代だからこそ、宝来の様な地域に根付いた小規模学校も必要なかもと考えると複雑な心境になります。

私は、宝来小学校が大好きです。いつからこんなに愛校心が強くなったのかと不思議でしょうがありません。

私の通った旧校舎は木造で、外壁に塗られたコールタールの匂いが今でも忘れられません。地元を離れた際の帰省時は、芋塚川付近から見える校舎にホッと安堵感と懐かしさを感じたものでした。そんな校舎も、平成4年に現在の山城に移転。私が結婚と長女の誕生を機に地元に戻った年です。

あれから20年。その間、私の3人の子供が通った校舎も次女の卒業と一緒に閉校を迎えます。親として接してきた宝来小は、PTA、地域、教職員に支えられた生活で、楽しくもあり、考え、苦労しながらも充実したものでした。

長女の時はスクールバスもなく、幼稚園から小学生との集団登校。周りと比べても小さく幼い娘が朝6時に起床し、毎日約4kmの通学路を泣きながら、時には、歩くのを止めたりしながらの登校で、高学年がカバンを持ち、おんぶしての登校がしばしば。そんな姿を暖かく支えてくれた地域の子供達や保護者に改めて感謝をしております。

そんな娘も今年二十歳を迎え、本年度は、宝来幼稚園で保育実習をさせて頂き、親も子供も最後まで宝来に育てられた思い出でいっぱいです。

私にとっての宝来小学校は、文章では書き切れない思い出を作り出し、地域の温かさを感じさせ、そして自分達を育ててくれる場でありました。

学校再編で宝来小学校は閉校を迎えますが、この再編が地域の子供達の明るい未来への一歩でありますように。

昭和49年 運動会



昭和58年 運動会



運動会

平成7年 綱引き





宝来小最後の一年に想いを寄せ

平成23年度 田高田地区委員長
高橋 康弘

毎年12月に京都の清水寺に於いて、その年の世相を最も良く反映しているとも言われる「今年の漢字」が発表されます。この原稿を書いているのはその発表2ヶ月前の10月ですが、おそらく今年(平成23年)は「絆」という一文字が選ばれるのではないかと予想しております。言うまでも無く、震災から復興へのシンボリックな言葉ですが、我が宝来小もその震災の影響で、臨時休校を余儀なくされた状況で最後の1年がスタートしました。

そもそも私は娘が2年生になったばかりで、宝来小には数えるくらいしか行った事はありませんでした。ところが今年は地区委員長をやらせていただき、実質的にも「PTAデビュー」という感のある1年にもなりました。残念ながらあまり活躍できたとは言えませんが、PTA活動を真剣かつ熱心にやっておられる方と多数巡り合い、今まで知らない事をたくさん教えて頂きました。

そして、閉校という限りなく寂しい事にも相対しながらいつしか「絆」のようなものが芽生えていくのが感じられました。その一つの結晶が10月1日に行われたサマースクールの成功に象徴されているのではないかと思います。当日のクライマックスとして行われたキャンプファイヤーのあの燃え盛る炎は、みんなの記憶に永く留まることと思います。

そんな1年を送った事もあり、遅ればせながら宝来小に愛着が湧いており、閉校への無念さは皆さんにも劣らないと自負できるようになりました。子供達にはそんな宝来小の「絆」をもって新しい小学校へと通ってもらいたいと思います。

最後になりましたが、今まで宝来小を見守り、育てこられた地域の皆様ありがとうございました。

そして、子供達を優しく導いて下さいました先生方、大変お世話になりました。また、新しい学校でお会いできる事を楽しみにしております。



昭和45年 学芸会

昭和47年 合奏

学芸会

平成8年 学芸会

昭和49年 学芸会





宝来小学校閉校にあたり

平成23年度 町田地区委員長
岩下 幸司

宝来小学校は、県北部中山間丘陵地に位置する学校です。宝来小学校教育目標は「豊かな心と自主性を持ち、たくましく生きる子どもを育成する」、目指す児童像は、「思いやりのある子ども・自ら学ぶ子ども・心と体をきたえる子ども」、これらのスローガンを基に宝来小学校は、地域に根差した教育を展開し、多くの人材を育成し、地元のニーズや期待が寄せられた学校として長期にわたり教育活動を行ってきました。地域に根ざし、社会に貢献する心・福祉・ボランティア精神（愛光園や交通安全活動）・キャップハンディ体験・野外活動を中心とした宿泊学習を通して子供達を育成していく伝統は、宝来小学校の大きな特色ある教育活動と言えます。

また近年、小学校でもALTと、主に英語を用いたコミュニケーション活動や、アクティビティを取り入れた活動を実施する小学校英語活動推進事業など、子供達はこの教育環境や自然環境の中で大きく成長しました。

また、少子化の為、児童数が少ない中、個々人が元気よく手を上げ発言し、臆すること無く物事に挑戦する姿は、少子化ならではの少人数学級の特色だと思っております。

生まれたばかりの時には、さまざまな未来を期待して、または、さまざまな思いを注ぎ込みその命に名前を付けた我が子を見て、大きくなったなあとお変うれしく思っております。

最後に、無常にも時代の流れには逆らえず、昭和31年4月より開校した宝来小学校は、数々の歴史的背景や、二度に渡る大地震を乗り越えましたが、平成23年度をもって閉校いたします。残念ではありますが、新天地、栗駒南小学校に行っても、宝来小学校は、確実に引き継がれるでしょう。

昭和44年 入学式



昭和45年 卒業記念「希望」

昭和47年 第1回卒園式



昭和44年 体育館落成



昭和43年 体育館上棟式



昭和58年 鳥舞





思い出をたくさんありがとう

平成23年度 西田地区委員長
細倉 和江

娘が入学してから、早いもので5年が経ちました。あと1年で卒業・・・という時に閉校を迎えなければいけなくなり、とても残念でさみしく感じます。

宝来小学校には、親子共々たった5年しかお世話になっていませんが、たくさん学び、たくさん思い出を作らせていただきました。

運動会・水泳大会・陸上大会・音楽祭・学習発表会などいろいろな行事がたくさんあり、どれも子供達全員が参加する・・・とてもいい経験をさせていただきました。子供と一緒に私も！

何事にも一生懸命取り組み、のびのびと学校生活を送れたのも、宝来小学校だから！だったかもしれせん。

人数が年々少なくなって、1学年に10人満たない、そんな中でも明るく元気で、とても前向きな子供達。先生方の目も一人一人に行き渡り、色々アドバイスもいただきました。時には相談にものって頂き、とてもありがたく感謝しています。

このまま、素晴らしい環境の宝来小学校を卒業させてあげたかった・・・きっと皆さんも同じ気持ちでしょう。

日に日に閉校という言葉が重く、淋しく、私達にのしかかってきます。

しかし、子供達の胸には、淋しさの他に、新しい学校に通う楽しみ、大勢の友達が出来る嬉しさに満ちあふれている事でしょう。

古くからの歴史をもつ素晴らしい宝来小学校は、無くなってしまいますが、これからの宝来地区にいる全ての子供達にとって、新しい道が開かれるのですから、私達は、しっかりその道を歩かせてあげたいと思います。

宝来地区に住む人々、そして、宝来小学校に通った子供達の胸には、いつまでも『宝来小学校』はきらきらと輝き続けるでしょう。

ありがとう・・・『宝来小学校・幼稚園』



平成24年 空撮 平面図



平成9年 剣道教室



平成9年 校舎上空からの航空写真





我が宝来小学校・幼稚園も、平成4年にこの山城の地に移転してから、早20年の歳月が流れました。その伝統は明治の時代からずっと、たすきが手渡されるがごとく、先生方や児童、そして地域の皆様により、途切れることなく引き継がれ、長きにわたる歴史を築き上げて参りました。しかしながら、平成24年3月末を以って、惜しまれつつもその長い歴史に終止符が打たれることになりました。これに際し、「よすが」となるべき記念誌作成のため、幾度かの編集会議を経て、この度、ここに記念誌「たからぎ」が発行されました。

これもひとえに、発行にご賛同くださいました地域の皆様方、さらには資料のご提供や、ご多忙にもかかわらず、快くご寄稿くださいました皆様方の、深いご理解とご協力の賜物であると、記念誌編集部一同、衷心より厚く御礼申し上げる次第であります。

なお、本誌の編集・作成にあたり、印刷製本直前の段階まで、保護者と先生方で構成される、当記念誌編集部が手作りで進めて参りましたので、至らない点もあろうかとは存じますが、何卒ご容赦の程お願い申し上げます。

編集に携わり改めて感じたことは、縁会って宝来小学校・幼稚園に奉職頂いた先生そして歴代卒業生の皆様が、地域の皆様に温かく支えられ過ごした学校生活の思い出など、学校への深い愛校心です。この宝来小学校で培われてきたよき伝統が、発展的に栗駒南小学校に引き継がれ、益々発展する事を願って止まないものであります。

記念誌編集部員

氏家 俊樹，鎌田 真弥，高橋 寛，岩淵 善衛，佐藤 綾(渡丸)，後藤 久美，
千田 昭，菊地 恵子，冨塚 英里，岩谷 栄子，佐藤 ゆみ，佐藤 俊治，秋山 仲，
秋山 浩一，岩渕りう子，今野 明伸，佐藤 綾(町田)，高橋 直也



閉校記念碑 (表)

閉校記念碑 (裏)

校木「マツ」

